



安全データシート(SDS)

フロアパッチFC 主剤

発行日: 2014-10-06

改訂日付: 2016-06-01

バージョン: R0001.0003

1. 化学製品および会社情報

A. 製品名

- フロアパッチFC 主剤

B. 製品の勧告用途と使用上の制限

- 用途 : コンクリート補修剤 主剤
- 使用上の制限 : 所定の用途以外に使用しないこと

C. 製造業者/供給者/流通業者情報

○ 製造者情報

- 製造元/供給元 : ITW Polymers Adhesives, North America
- 住所 : 30 Endicott Street, Danvers, MA 01933

○ 供給者/販売者情報

- 供給元/販売元 : 株式会社ITWパフォーマンスポリマーズ & フルイズジャパン
- 住所 : 〒564-0053 大阪府吹田市江の木町30-32
- 担当部署 : 品質管理部
- 電話 : 06-6330-7118
- FAX : 06-6330-7083

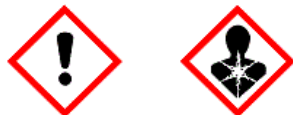
2. 危険有害性情報

A. GHS分類

- 皮膚腐食性/刺激性: 区分2
- 皮膚感作性: 区分1
- 発がん性: 区分2
- 慢性水生環境有害性: 区分4

B. 予防措置文句を含む警告表示項目

○ シンボル



○ 信号語

- 警告

○ 危険有害性情報

- H315 皮膚刺激
- H317 アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
- H351 発がんのおそれの疑い
- H413 長期的影響により水生生物に有害のおそれ

○ 注意書き

1) 予防

- P201 使用前に取扱説明書を入手すること。
- P202 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
- P261 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレートの吸入を避けること。
- P264 取扱後は手をよく洗うこと。
- P272 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
- P273 環境への放出を避けること。
- P280 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
- P281 指定された個人用保護具を使用すること。

2) 対応

- P302+P352 皮膚に付着した場合: 多量の水と石鹸で洗うこと。
- P308+P313 暴露または暴露の懸念がある場合: 医師の診断/手当てを受けること。
- P321 特別な処置が必要である
- P332+P313 皮膚刺激が生じた場合: 医師の診断/手当てを受けること。
- P333+P313 皮膚刺激または発疹が生じた場合: 医師の診断/手当てを受けること。

- P362 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
- P363 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。

3) 保存

- P405 施錠して保管すること。

4) 廃棄

- P501 内容物/容器を都道府県/市町村の法令・規則に従って廃棄すること。

C. 有害・危険性分類基準に含まれてないその他の有害・危険性

○ NFPA等級 (0～4段階)

- 保健: 2, 火災: 1, 反応性: 0

3. 組成及び成分情報

- 単一製品・混合物の区別 : 混合物
- 一般名 : エポキシ樹脂組成物

化学物質名	慣用名及び異名	CAS No.	官報公示番号	PRTR法	含有量(%)
ビスフェノールA/エポクロロヒドリンコポリマー	-	25068-38-6	-	-	60-70
オキシラン類	-	68609-97-2	-	-	10-20
二酸化チタン	Titanium oxide (Tio2)	13463-67-7	1-558	-	1-10

*GHS危険有害性分類対象物質と日本国内法規制対象物質のみ記載

4. 応急措置**A. 眼への接触**

- 眼をこすらないこと。
- 大量の水を使用して、少なくとも15分間眼を洗い流すこと。
- 直ちに医師の治療を受けること。

B. 皮膚に付着した場合

- 直ちに医師の治療を受けること。

C. 吸入毒性

- 多量の蒸気やミストに曝露された場合、直ちに新鮮な空気のある場所に移すこと。
- 必要に応じて適切な措置をとること。
- 直ちに医師の治療を受けること。

D. 飲み込んだ場合

- 嘔吐をすべきかどうかについては医師の助言を取ること。
- 直ちに水で口をすすぐこと。
- 直ちに医師の治療を受けること。

E. 急性および遅延性の主な症状/影響

- データなし

F. 応急処置および医師の注意事項

- ばく露とばく露懸念時、医学的な措置、助言を求めること。

5. 火災時の措置**A. 消火剤**

- 粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂

B. 使ってはならない消火剤

- 水、泡(炎を拡散する可能性がある)

C. 特有の危険有害性

- 消火活動の際には有毒ガスが発生するので、煙を吸入しないように注意する。

D. 特定の消化方法

- 適切な保護具を着用する。防護服を着用していない人を作業場から遠ざける。可燃性のものを周囲から素早く取り除く。爆発のリスクを最小限にする為、霧状の水を使用して容器を冷却する。

E. 消化を行う者の保護

- 空気呼吸器を含め、必要に応じて適切な保護具(耐熱性)を着用すること。

6. 漏出時の措置**A. 人体を保護するために必要な注意事項**

- 密閉された空間に出入りする前に、換気を実施すること。
- 風上で作業して、風下にいる人を非難させること。
- すべての発火源を取り除くこと。
- 危険地域を隔離し、関係者外の立ち入りを禁止すること
- 皮膚との接触、吸入を避けること。

B. 環境に対する注意事項

- 漏出物が下水施設、水系に流入しないようにすること。
- 漏出量が多い場合、119や環境省、地方環境管理庁、市・道（環境指導課）に通報すること。

C. 浄化方法

- 大量漏出の場合、低い領域を避け、風上に止まること。後日処理のために堤防を築造して管理すること。
- 基準量以上排出時、中央政府、地方公共団体の排出の内容を通知すること。
- 廃棄物管理法（環境省）により処理すること。
- 漏出物質廃棄のため、適切な容器に回収すること。

7. 取扱い及び保管上の注意**A. 安全な取り扱いのための注意事項**

- 容器が空になった後も製品かす（蒸気、液体、固体）が残ることがあるので、すべてMSDS、ラベルの予防措置に従
- すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
- 汚染された衣服を作業場から持ち出さないこと。

B. 安全保管条件

- 静電気を防止するために可燃性の物質および熱源から遠ざけること。
- 密閉容器に入れて回収すること。
- 発がん性物質保存区域を指定して保存すること。

8. 暴露防止及び保護措置**A. 許可濃度**

- 日本許容濃度
 - 該当なし
- ACGIHの暴露標準
 - [Titanium dioxide] : TWA 10 mg/m³

B. 設備対策

- 作業所はできるだけ自動化し、混合、加熱工程等の設備はできるだけ密閉構造にする。取扱場所の近くに手洗い、洗眼設備等を設け、その位置を明示する。

C. 個人防護具

- 呼吸保護
 - 使用前に警告の特性を考慮すること。
- 眼の保護
 - 作業場の近くに洗顔設備と非常洗浄設備（シャワー式）を設置すること。
- 手の保護
 - 適切な保護手袋を着用すること。
- 身体の保護
 - 適切な保護服を着用すること。
- その他
 - データなし

9. 物理化学的特性

A. 外観	
- 性状	液状
- 色	灰色
B. 臭い	微香
C. 臭気閾値	データなし
D. pH	中性

E. 融点/凝固点	データなし
F. 沸点、初留点及び沸騰範囲	> 260 °C
G. 引火点	> 148.8 °C
H. 蒸発速度	<<1(酢酸ブチル=1)
I. 引火性(固体、気体)	データなし
J. 燃焼又は爆発範囲下限/上限	データなし
K. 蒸気圧	0.03mmHg@77.2°C
L. 溶解度	データなし
M. 蒸気密度	>1(空気=1)
N. 比重	1.1-1.3
O. 水/n-オクタノール分配係数	データなし
P. 自然発火温度	データなし
Q. 熱分解温度	データなし
R. 粘度	データなし
S. 分子量	データなし

10. 安定性及び反応性

A. 安定性

- 推奨された保管と取り扱いの場合、安定する。

B. 有害反応の可能性

- 強ルイス酸、無機酸、強酸化剤、強無機塩基及び有機塩基(特に一級及び二級脂肪族アミン類)との混触は避ける。

C. 避けるべき条件

- 高温、火花及び直火。混触禁止物質、酸化剤及び酸化する環境。空気中で材料を148°C以上に熱するとゆっくりと酸化性分解する可能性がある。

D. 混触危険物質

- 強ルイス酸、無機酸、強酸化剤、強無機塩基及び有機塩基(特に一級及び二級脂肪族アミン類)

E. 危険有害な分解生成物

- 燃焼などによりCO等の有害ガスを発生するおそれがある。

11. 毒性に関する情報

A. 暴露の可能性が高いルートに関する情報

- (呼吸器)
 - データなし
- (経口)
 - データなし
- (眼・皮膚)
 - 皮膚刺激
 - アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ

B. 毒性と刺激性

- 急性毒性
 - * 経口毒性
 - [4,4'-(1-methylethylidene)bisphenol polymer with (chloromethyl)oxirane]: ラットに対する経口投与のLD50=>1,000 mg/kg、11,400 mg/kg、13,600 mg/kg(以上、CERIハザードデータ集 2001-36 (2002))に基づき、確定値のうち低い値のLD50=11,400 mg/kgから、区分外とした。
 - [Oxirane, mono[(alkyl(C=12-14)oxy)methyl] derivs.]: LD50(動物種記載なし)=19.2 mL/kg(重量換算値17.1g/kg) (PATTY (5th, 2001)及びLD50(ラット) =17100mg/kg(RTECS (1999)))は区分外に該当する。
 - [Titanium dioxide]: ラットLD50 >20000mg/kg (DFGOT(1991))は区分外に該当する。
 - * 経皮毒性
 - [4,4'-(1-methylethylidene)bisphenol polymer with (chloromethyl)oxirane]: ラットに対する経皮投与のLD50=>1,600 mg/kg (CERIハザードデータ集 2001-36 (2002))に基づき、区分4以上に分類されると考えられるが、確定値が得られていないので、「分類できない」とした。
 - [Titanium dioxide]: ウサギ approxLD50 >10000mg/kg (IUCLID (2000))は区分外に該当する。
 - * 吸入毒性
 - データなし
- 皮膚腐食性/刺激性
 - [4,4'-(1-methylethylidene)bisphenol polymer with (chloromethyl)oxirane]: CERIハザードデータ集 2001-36 (2002)、DFGOTvol.19 (2003) のウサギに対する皮膚一次刺激性試験結果の記述「皮膚刺激性について刺激性なしから中等度の刺激性を有する」から、4時間適用試験結果はないが、刺激性を有すると考えられ、区分2とした。

- [Oxirane, mono[(alkyl(C=12-14)oxy)methyl] derivs.] : アルキルグリシジルエーテルは中等度の皮膚刺激性（ドレイズ コア 3～4）との記載がある (PATTY (5th, 2001)）ことから区分2とした。なお、ウサギを用いたドレイズ試験で中等度の刺激性（RTECS(1999)）とされ、EUがXi; R38 (EU-Annex I (Access on 2 2009))に分類している。
- [Titanium dioxide] : ウサギを用いた試験で0.5 g、24時間の適用で軽度の刺激性（slightly irritating）（IUCLID (2000)）、0.1 g、24時間の適用で刺激性なし（not irritating）（IUCLID (2000)）の記載より区分外とした。
- **眼に対する重篤な損傷／刺激性**
 - [4,4'-(1-methylethylidene)bisphenol polymer with (chloromethyl)oxirane] : CERiハザードデータ集 2001-36 (2002)のウサギに対する眼刺激性試験結果の記述「刺激性なしから軽度の刺激性を有する」から、軽度の刺激性を有すると考えられ、区分2Bとした。
 - [Oxirane, mono[(alkyl(C=12-14)oxy)methyl] derivs.] : アルキルグリシジルエーテルは軽微な刺激性とされている(PATTY (5th, 2001)）ことから区分 2 Bとした。
 - [Titanium dioxide] : ウサギを用いた試験で軽度の刺激性（mild irritaton）との結果 (IUCLID (2000))より区分2Bとした。なお、適用5分後に洗浄した別の試験では刺激性なし（not irritating）の結果 (IUCLID (2000))が得られている。
- **呼吸器感作性**
 - [4,4'-(1-methylethylidene)bisphenol polymer with (chloromethyl)oxirane] : 呼吸器感作性：データなし 皮膚感作性： CERiハザードデータ集 2001-36 (2002)、DFGOTvol.19 (2003) のヒトにおける症例研究やボランティア試験の結果、また、モルモットに対する皮膚感作性試験結果の記述及び日本職業・環境アレルギー学会による「皮膚感作性物質」という分類結果から、皮膚感作性を有すると考えられ、区分1とした。
 - [Oxirane, mono[(alkyl(C=12-14)oxy)methyl] derivs.] : （呼吸器感作性）データなし。（皮膚感作性）アルキルグリシジルエーテルは感作性ありとされ (PATTY, (5th 2001)、EUでは Xi; R43(EU-Annex I (Access on 2 2009))に分類されていることから区分1とした。
- **皮膚感作性**
 - [Titanium dioxide] : モルモットを用いた皮膚感作性試験（Maurer optimisation test）で感作性なしの結果（IUCLID (2000)）、および290人の皮膚炎患者群による試験では48時間のパッチテストに誰も反応せず、感作性の証拠が得られなかったとの結果（IUCLID (2000)）がある。しかし、いずれもList 2のデータであり、かつモルモットを用いた試験は分類のため推奨されている試験法ではないことから「分類できない」とした。
- **発がん性**
 - * **IARC**
 - [Titanium dioxide] : Group 2B
 - * **OSHA**
 - データなし
 - * **ACGIH**
 - [Titanium dioxide] : A4
 - * **NTP**
 - データなし
 - * **EU CLP**
 - データなし
- **生殖細胞変異原性**
 - [4,4'-(1-methylethylidene)bisphenol polymer with (chloromethyl)oxirane] : DFGOT vol.19 (2003) の記述から、経世代変異原性試験（優性致死試験）で陰性、生殖細胞in vivo変異原性試験（染色体異常試験）で陰性、体細胞in vivo変異原性試験（小核試験、染色体異常試験）で陰性であることから、区分外とした。
 - [Oxirane, mono[(alkyl(C=12-14)oxy)methyl] derivs.] : マウスを用いた経皮投与による優性致死試験（In vivo経世代変異原試験）で陰性（PATTY (5th, 2001)）であることから区分外とした。なお、In vitro変異原性試験：マウスリンフォーマ試験は陰性、Ames試験は陰性または弱い陽性である（いずれもPATTY (5th, 2001)）。
 - [Titanium dioxide] : マウスの腹腔内投与による骨髄細胞小核試験および染色体異常試験（いずれも体細胞in vivo変異原性試験）で陰性（NTPDB (2005)）の記載より区分外とした。なお、チャイニーズハムスターを用いるin vivo SCE試験（体細胞in vivo遺伝毒性試験）およびAmes試験、培養細胞を用いる染色体異常試験、マウスリンフォーマアッセイ（いずれもin vitro変異原性試験）で陰性の結果が得られている。
- **生殖毒性**
 - [4,4'-(1-methylethylidene)bisphenol polymer with (chloromethyl)oxirane] : PATTY (4th, 2000) 及びDFGOT vol.19 (2003) の記述から、生殖毒性試験、催奇形性試験のいずれにおいても、親動物毒性がみられる用量で生殖及び発生への影響がみられていないことから、区分外とした。
- **標的臓器／全身毒性（単回暴露）**
 - [Titanium dioxide] : ラットの経口投与による致死量が20000 mg/kg以上（DFGOT (1991)）であり、さらにヒトで本物質の摂取は実質的に無毒と考えられており、1 ポンド（453.6 g：ヒト体重60kgとして7560 mg/kg）の摂取により有害性を示すことなく、24時間以内に糞便中に排泄された（ACGIH (2001)）と記述されていることから、経口では区分外に該当する。しかし、他経路でのデータが不十分なため「分類できない」とした。なお、ヒュウムは気道を刺激するとの記載がある具体的なデータはない（HDSB (2005)）。
- **標的臓器／全身毒性（反復暴露）**
 - [Titanium dioxide] : ラットおよびマウスに13週間あるいは103週間混餌投与した4試験のいずれの試験においても、ガイドンス値上限を超える25000 ppm (1250 mg/kg/day) の用量でばく露に起因する影響がない(NTP TR No.97(1979))ことから、経口投与で区分外に該当する。一方、20年以上職業暴露している労働者の極くわずかながら、肺機能の変化は伴わないが、X線検査で塵肺症変化が明らかになった(DFGOTvol.2 (1991))との記載があるが、酸化チタンが線維化作用を有するかどうかを主な検討目的とした疫学調査は数多く実施され、その大半が因果関係について否定的で本物質と肺線維症との関連を示す確かな証拠は見出されていない(DFGOTvol.2 (1991)、ACGIH (2001)、IARC vol. 47 (1989)、PATTY (5th, 2001))。かつ、ラットに2年間吸入ばく露により、ガイドンス値上限を超える250 mg/m3 (5 days/week, 6 h/day: 粉塵) の濃度でも重大な影響が認められていない (IUCLID (2000))ことから、吸入ばく露でも区分外に該当する。しかし、その他に経皮ばく露のデータがないので、総合的には「分類できない」とした。
- **吸入有害性**

- データなし

12. 生態学的情報

A. 生態毒性

- 魚類
 - データなし
- 甲殻類
 - [4,4'-(1-methylethylidene)bisphenol polymer with (chloromethyl)oxirane] : 甲殻類(オオミジンコ)の48時間EC50=1.7mg/L
- 藻類
 - データなし

B. 残留性と分解性

- 残留性
 - データなし
- 分解性
 - データなし

C. 生体蓄積性

- 生体蓄積性
 - データなし
- 生分解性
 - データなし

D. 土壌中の移動性

- データなし

E. オゾン層への有害性

- データなし

F. その他の有害な影響

- [4,4'-(1-methylethylidene)bisphenol polymer with (chloromethyl)oxirane] : 急性毒性が区分1、生物蓄積性が低いものの (BCF ≤42 (既存化学物質安全性点検データ))、急速分解性がない (BODによる分解度: 0% (既存化学物質安全性点検データ)) ことから、区分1とした。

13. 廃棄上の注意

A. 廃棄方法

- 油と水の分離が可能なのは、油と水の分離方法で事前処理すること。
- 焼却して処理する
- 廃棄物管理法上の規定を遵守すること。

B. 廃棄上の注意

- データなし

14. 輸送上の注意

A. 国連番号

- データなし

B. 国連輸送固有名

- データなし

C. 輸送危険クラス (ES) :

- データなし

D. 包装等級

- データなし

E. 海洋汚染物質

- 該当なし

F. 輸送の特定の安全対策及び条件

- DOTおよびその他の規定により包装または輸送すること。
- 火災時の非常措置の種類: データなし

- 流出時の非常措置の種類 : データなし

15. 適用法令

A. 日本国内規制事項

○ 消防法

- 第4類第3石油類(非水溶性液体)

* 危険等級

- III

○ 労働安全衛生法

* 表示物質

- 法第57条第1項、施行令第18条第1号、第2号・別表第9(191 二酸化チタン)

* 通知物質

- 法第57条の2、施行令第18条の2第1号、第2号・別表第9(191 二酸化チタン)

* その他

- 変異原性物質(ビスフェノールA型エポキシ樹脂)

○ 労働基準法

- 平成8年労働基準局長通達 基発第182号13 ビスフェノールA型エポキシ樹脂

B. 他の国内および国際法律情報

○ 残留性有機汚染物質規制法

- 該当なし

○ EU 分類情報

* 分類

- [4,4'-(1-methylethylidene)bisphenol polymer with (chloromethyl)oxirane] : Xi; R36/38 R43 N; R51-53

- [Oxirane, mono[(alkyl(C=12-14)oxy)methyl] derivs.] : Xi; R38, R43

* 危険有害性情報

- [4,4'-(1-methylethylidene)bisphenol polymer with (chloromethyl)oxirane] : R36/38, R43, R51/53

- [Oxirane, mono[(alkyl(C=12-14)oxy)methyl] derivs.] : R38, R43

* 注意書き

- [4,4'-(1-methylethylidene)bisphenol polymer with (chloromethyl)oxirane] : S2, S28, S37/39, S61

- [Oxirane, mono[(alkyl(C=12-14)oxy)methyl] derivs.] : S2, S24, S37

○ 米国の管理情報

* OSHA規定 (29CFR1910.119)

- 該当なし

* CERCLA 103 規制 (40CFR302.4)

- 該当なし

* EPCRA 302 規制 (40CFR355.30)

- 該当なし

* EPCRA 304 規制 (40CFR355.40)

- 該当なし

* EPCRA 313 規制 (40CFR372.65)

- 該当なし

○ ロッテルダム協約物質

- 該当なし

○ スtockホルム協約物質

- 該当なし

○ モントリオール議定書物質

- 該当なし

16. その他注意事項

A. 参考文献

- このSDSはKOSHA、NITE、ESIS、NLM、SIDS、IPCSなどに基づいて作成してある。
- 危険及び有害性評価は十分ではないので、お取り扱いには十分にご注意ください。
- 本製品安全データシートは当社の製品を適切に使用するために注意する事項を簡単に整理したもので、通常の取り扱いを対象に作成されております。
- ここに記載された内容は現時点で入手出来た情報やメーカー所有の知見に基づいて作成しており、そのデータや評価はいかなる保証をなすものではありません。
- 法令の改訂及び新しい知見により改訂されることがあります。
- GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法ーラベル、作業場内の表示及び安全データシート(SDS) JIS Z 7253

B. 作成日

- 2014-10-06

C. 改訂回数及び最終改訂日

- 4 times, 2016-06-01

D. その他

- この情報は労働者の健康、環境、安全を保護するため、現在使用可能なDBに基づいて作成してある。

安全データシート(SDS)

フロアパッチFC 硬化剤

発行日: 2014-10-06

改訂日付: 2021-01-06

バージョン: R0001.0003

1. 化学製品および会社情報

A. 製品名

- フロアパッチFC 硬化剤

B. 製品の勧告用途と使用上の制限

- 用途 : コンクリート補修剤 硬化剤
- 使用上の制限 : 所定の用途以外に使用しないこと

C. 製造業者/供給者/流通業者情報

- 製造者情報
 - 製造元/供給元 : ITW Performance Polymers, North America
 - 住所 : 30 Endicott Street, Danvers, MA 01933
- 供給者/販売者情報
 - 供給元/販売元 : 株式会社ITWパフォーマンスポリマーズ & フルuids シェパソン
 - 住所 : 〒564-0053 大阪府吹田市市江の木町30-32
 - 担当部署 : 品質管理部
 - 電話 : 06-6330-7118
 - FAX : 06-6330-7083

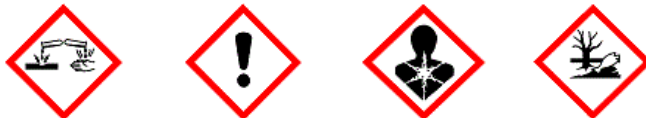
2. 危険有害性情報

A. GHS分類

- 急性毒性(経口) : 区分4
- 急性毒性(経皮) : 区分4
- 皮膚腐食性/刺激性 : 区分2
- 眼に対する重篤な損傷/刺激性 : 区分1
- 皮膚感作性 : 区分1
- 生殖細胞変異原性 : 区分1B
- 生殖毒性 : 区分1B
- 標的臓器/全身毒性(単回暴露) : 区分1(呼吸器、心血管系、腎臓、神経系)
- 標的臓器/全身毒性(単回暴露) : 区分3(麻酔作用)
- 標的臓器/全身毒性(反復暴露) : 区分2(呼吸器、心血管系、肝臓、消化管、血液系、腎臓、脾臓、胸腺、中枢神経系)
- 急性水生環境毒性 : 区分1
- 慢性水生環境有害性 : 区分1

B. 予防措置文句を含む警告表示項目

○ シンボル



○ 信号語

- 危険

○ 危険有害性情報

- H302 飲み込むと有害
- H312 皮膚に接触すると有害
- H315 皮膚刺激
- H317 アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
- H318 重篤な眼の損傷
- H336 眠気やめまいのおそれ
- H340 遺伝性疾患のおそれ
- H360 生殖能または胎児への悪影響のおそれ
- H370 臓器の障害(呼吸器、心血管系、腎臓、神経系)

- H373 長期にわたる、または反復暴露により臓器の障害のおそれ(呼吸器、心血管系、肝臓、消化管、血液系、腎臓、脾臓、胸腺、中枢神経系)
- H400 水生生物に強い毒性
- H410 長期的影響により水生生物に非常に強い毒性

○ 注意書き

1) 予防

- P201 使用前に取扱説明書を入手すること。
- P202 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
- P260 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
- P264 取扱後は手をよく洗うこと。
- P270 この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
- P271 屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。
- P272 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
- P273 環境への放出を避けること。
- P280 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
- P281 指定された個人用保護具を使用すること。

2) 対応

- P301+P312 飲み込んだ場合：気分が悪い時は医師に連絡すること。
- P302+P352 皮膚に付着した場合：多量の水と石鹸で洗うこと。
- P304+P340 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- P305+P351+P338 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
- P308+P313 暴露または暴露の懸念がある場合：医師の診断/手当てを受けること。
- P314 気分が悪い時は、医師の診断/手当てを受けること。
- P322 特別な処置が必要である
- P330 口をすすぐこと。
- P332+P313 皮膚刺激が生じた場合：医師の診断/手当てを受けること。
- P333+P313 皮膚刺激または発疹が生じた場合：医師の診断/手当てを受けること。
- P362 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
- P391 漏出物を回収すること。

3) 保存

- P403+P233 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
- P405 施錠して保管すること。

4) 廃棄

- P501 内容物/容器を都道府県/市町村の法令・規則に従って廃棄すること。

C. 有害・危険性分類基準に含まれてないその他の有害・危険性

○ NFPA等級 (0~4段階)

- 保健：3, 火災：1, 反応性：0

3. 組成及び成分情報

- 単一製品・混合物の区別 : 混合物
- 一般名 : ポリアミン組成物

化学物質名	慣用名及び異名	CAS No.	官報公示番号	PRTR法	含有量(%)
4, 4'-イソプロピリデンジフェノール	4,4'-Dihydroxydiphenylpropane, Bisphenol A	80-05-7	4-123	第1種、37号	30
ベンジルアルコール	-	100-51-6	3-1011	-	10-20
1-アミノエチルピペラジン	-	140-31-8	5-961	-	10-20
ノニルフェノール	P-Nonylphenol, branched	25154-52-3	3-503	第1種、320号	30
1, 3-フェニレビス(メチルアミン)	1,3-Benzenedimethanamine	1477-55-0	3-308	-	1-10
ベンジルジメチルアミン	N,N-dimethylbenzylamine	103-83-3	3-332	-	1-10
フェノール	Hydroxybenzene	108-95-2	3-481	第1種、349号	2

*GHS危険有害性分類対象物質と日本国内法規制対象物質のみ記載

4. 応急措置

A. 眼への接触

- 眼をこすらないこと。
- 大量の水を使用して、少なくとも15分間眼を洗い流すこと。
- 直ちに医師の治療を受けること。

B. 皮膚に付着した場合

- 直ちに医師の治療を受けること。
- 皮膚のまん延を防ぐこと。

C. 吸入毒性

- 多量の蒸気やミストに曝露された場合、直ちに新鮮な空気のある場所に移すこと。
- 必要に応じて適切な措置をとること。
- 直ちに医師の治療を受けること。

D. 飲み込んだ場合

- 嘔吐をすべきかどうかについては医師の助言を取ること。
- 直ちに水で口をすすぐこと。
- 直ちに医師の治療を受けること。

E. 急性および遅延性の主な症状/影響

- データなし

F. 応急処置および医師の注意事項

- ばく露とばく露懸念時、医学的な措置、助言を求めること。

5. 火災時の措置

A. 消火剤

- 粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂

B. 使ってはならない消火剤

- 水、泡（炎を拡散する可能性がある）

C. 特有の危険有害性

- 消火活動の際には有毒ガスが発生するので、煙を吸入しないように注意する。

D. 特定の消化方法

- 適切な保護具を着用する。防護服を着用していない人を作業場から遠ざける。可燃性のものを周囲から素早く取り除く。爆発のリスクを最小限にする為、霧状の水を使用して容器を冷却する。

E. 消化を行う者の保護

- 空気呼吸器を含め、必要に応じて適切な保護具（耐熱性）を着用すること。

6. 漏出時の措置

A. 人体を保護するために必要な注意事項

- 作業者は適切な保護具（"8. 暴露防止及び保護措置"の項参照）を着用して、眼、皮膚への接触や吸入を避けること。
- 風上で作業して、風下にいる人を非難させること。
- 漏出区域から安全な区域に容器を移動すること。
- 危険地域を隔離し、関係者外の立ち入りを禁止すること
- 皮膚との接触、吸入を避けること。

B. 環境に対する注意事項

- 漏出物が下水施設、水系に流入しないようにすること。
- 漏出量が多い場合、119や環境省、地方環境管理庁、市・道（環境指導課）に通報すること。

C. 浄化方法

- 大量漏出の場合、低い領域を避け、風上に止まること。後日処理のために堤防を築造して管理すること。
- 基準量以上排出時、中央政府、地方公共団体の排出の内容を通知すること。
- 廃棄物管理法（環境省）により処理すること。
- 漏出物質廃棄のため、適切な容器に回収すること。
- 漏出物質は潜在的な危険性廃棄物としての処理をすること。
- 下水道、水系に流入しないようにすること。

7. 取扱い及び保管上の注意

A. 安全な取り扱いのための注意事項

- 容器が空になった後も製品かす（蒸気、液体、固体）が残ることがあるので、すべてMSDS、ラベルの予防措置に従うこと。
- 汚染された衣服を作業場から持ち出さないこと。

B. 安全保管条件

- 避けるべき物質および条件に注意すること。
- 使用しない場合、密閉しておくこと。
- 密閉容器に入れて回収すること。

8. 暴露防止及び保護措置

A. 許可濃度

- 日本許容濃度
 - [Phenol] : 5ppm, 19mg/m³, S
- ACGIHの暴露標準
 - [1,3-Bis (Aminomethyl) benzene] : Ceiling, 0.1 mg/m³, Vapor and aerosol
 - [Phenol] : TWA 5 ppm (19 mg/m³)

B. 設備対策

- 作業所はできるだけ自動化し、混合、加熱工程等の設備はできるだけ密閉構造にする。取扱場所の近くに手洗い、洗眼設備等を設け、その位置を明示する。

C. 個人防護具

- 呼吸保護
 - 使用前に警告の特性を考慮すること。
- 眼の保護
 - 作業場の近くに洗顔設備と非常洗浄設備（シャワー式）を設置すること。
- 手の保護
 - 適切な保護手袋を着用すること。
- 身体の保護
 - 適切な保護服を着用すること。
- その他
 - データなし

9. 物理化学的特性

A. 外観	
- 性状	液状
- 色	黄褐色透明
B. 臭い	アミン臭
C. 臭気閾値	データなし
D. pH	アルカリ性
E. 融点/凝固点	データなし
F. 沸点、初留点及び沸騰範囲	> 200 °C
G. 引火点	> 100 °C
H. 蒸発速度	データなし
I. 引火性（固体、気体）	データなし
J. 燃焼又は爆発範囲下限/上限	データなし
K. 蒸気圧	<1mmHg@23°C
L. 溶解度	僅かに水に可溶
M. 蒸気密度	>1(空気=1)
N. 比重	1.05
O. 水/n-オクタノール分配係数	データなし
P. 自然発火温度	データなし
Q. 熱分解温度	データなし
R. 粘度	データなし
S. 分子量	データなし

10. 安定性及び反応性

A. 安定性

- 常温・常圧、密閉保管であれば安定

B. 有害反応の可能性

- 酸、酸化剤、有機塩素化合物、反応性金属（ナトリウム、カルシウム、亜鉛等）、次亜塩素酸ナトリウム/カリウム、亜硝酸、一酸化二窒素、亜硝酸化合物との混触を避ける。本品はヒドロキシル化合物と反応する。

C. 避けるべき条件

- 高温、火花及び直火。混触禁止物質、酸化剤及び酸化する環境。

D. 混触危険物質

- 酸、酸化剤、有機塩素化合物、反応性金属（ナトリウム、カルシウム、亜鉛等）、次亜塩素酸ナトリウム/カリウム、亜硝酸、一酸化二窒素、亜硝酸化合物

E. 危険有害な分解生成物

- データなし

11. 毒性に関する情報

A. 暴露の可能性が高いルートに関する情報

- (呼吸器)
 - データなし
- (経口)
 - 飲み込むと有害
- (眼・皮膚)
 - 重篤な眼の損傷
 - 皮膚刺激
 - アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ

B. 毒性と刺激性

○急性毒性

* 経口毒性

- [4,4'-(1-Methylethylidene)bisphenol] : ラットに対する経口投与のLD50=3,300 mg/kg、4,100 mg/kg、およそ5,000 mg/kg (以上、EU-RAR No.37 (2003)) に基づき、確定値である低い値のLD50=3,300 mg/kgから、区分5とした。
- [Nonylphenol] : ラットに対する経口投与のLD50=1,300 mg/kg、2,462 mg/kg (以上、CERI・NITE有害性評価書 No.1 (2004))、580 mg/kg、1,620 mg/kg (以上、CERIハザードデータ集 96-44 (1998)) に基づき、計算式を適用して区分する。算出されたLD50 (計算値)=851 mg/kgから、区分4とした。
- [Benzyl alcohol] : ラットのLD50値=1610 mg/kg (SIDS (2008)) (Directive 84/449/EECガイドラインに準拠)、1230 mg/kg (PATTY (5th, 2001))、2080 mg/kg [SIDS (2008)]、3100 mg/kg (PATTY (5th, 2001))のデータに基づき、EECガイドライン準拠、かつ、危険性の高い区分を採用し、区分4とした。
- [1-(2-aminoethyl)piperazine] : ラットにおけるLD50値 1470 mg/kg 体重、約 2140 mg/kg 体重(IUCLID,2000)のデータがあり、低値を採用して区分4とした。
- [1,3-Bis (Aminomethyl) benzene] : ラットLD50値 : 930mg/kg (ACGIH 7th, 2001)、660mg/kg (ACGIH 7th, 2001)、980mg/kg (SIDS, 2001)に基づき、計算を適用した。計算値は693mg/kgであったことから、区分4とした。
- [Phenol] : ラットを用いた経口投与試験のLD50値 414 mg/kg (環境省リスク評価第1巻 (2002))、512 mg/kg (EHC 161 (1994))、400 mg/kg (EHC 161 (1994))、340 mg/kg (EHC 161 (1994))、445 mg/kg (EHC 161 (1994)) に基づき、計算式を適用して区分4とした。LD50=375 mg/kg

* 経皮毒性

- [4,4'-(1-Methylethylidene)bisphenol] : ウサギに対する経皮投与のLD50=>2,000 mg/kg、>6,400 mg/kg (以上、EU-RAR No.37 (2003)) に基づき、確定値が得られていないため明確な区分は出来ないが、2,000 mg/kgで3/15匹の死亡がみられたことから、区分5とした。
- [Nonylphenol] : ラットに対する経皮投与のLD50=2,140 mg/kg (CERIハザードデータ集 96-44 (1998))、>2,000 mg/kg (CERI・NITE有害性評価書 No.1 (2004))、2,031 mg/kg (EU-RAR No.10 (2002)) に基づき、確定値のうちの低い値のLD50=2,031 mg/kgから、区分5とした。
- [Benzyl alcohol] : ウサギのLD50値=2000mg/kg (SIDS (2008))に基づき、区分4とした。
- [1-(2-aminoethyl)piperazine] : ウサギにおけるLD50値 880 mg/kg 体重(IUCLID,2000)、EU分類においてR21 (区分3または区分4相当) (EU-AnnexI,access on 11.2008) であることから区分3とした。
- [1,3-Bis (Aminomethyl) benzene] : ウサギLD50値 : 2000mg/kg (ACGIH 7th, 2001) に基づき、区分4とした。
- [Phenol] : ラットを用いた経皮投与試験のLD50値670 mg/kg (EHC 161 (1994)) に基づき、区分3であった。また、ウサギを用いた経皮投与試験のLD50値850 mg/kg及び1,400 mg/kg (EHC 161 (1994)) に基づき、計算式を適用した結果は区分3であった。ウサギよりラットの方が値が低く、これを採用し区分3に分類した。

* 吸入毒性

- [Benzyl alcohol]: ラットのLC50値>4.178 mg/L (SIDS (2008)) (OECD TG 403; GLP準拠)、ラットのLC50値=8.9 mg/L (SIDS (2008))、ラットのLC50値=8.84 mg/L (換算値: 12.5 mg/L/4h)(PATTY (5th, 2001))に基づき、GLP準拠のデータ>4.178 mg/Lかつ危険性の高い区分 (8.9 mg/L) を採用しJIS分類基準の区分3とした。なお、毒性値濃度 (2012 ppmV) は飽和蒸気圧濃度(123.6 ppmV; 25°C) の90%値よりも高いので蒸気と判断した。
- [1,3-Bis (Aminomethyl) benzene]: ラットLC50 (1時間) 値: 3.75mg/L (4時間換算値0.938mg/L) (ACGIH 7th, 2001)、LC50 (4時間) 値: 0.8mg/L (SIDS, 2001) に基づき、区分3とした。

○皮膚腐食性/刺激性

- [4,4'-(1-Methylethylidene)bisphenol]: EU-RAR No.37 (2003) のウサギを用いた皮膚一次刺激性試験 (4時間皮膚適用) の結果「紅斑、浮腫などの皮膚反応は認められなかった」に基づいた結論の記述「ビスフェノールAは皮膚刺激性を有しない」から、皮膚刺激性を有しないと考えられ、区分外とした。
- [Nonylphenol]: CERI・NITE有害性評価書 No.1 (2004) の記述「ノニルフェノールはウサギに対する皮膚刺激性試験に対して、暴露時間の延長により腐食性を示す。」及びEU-RAR No.10 (2002) の記述「2つの試験結果から、ノニルフェノールは皮膚腐食性を有すると考えられる。」から、ノニルフェノールは腐食性を有すると考えられ、区分1A-1Cとした。しかし、安全性の観点から、1Aとすることが望ましい。
- [Benzyl alcohol]: ウサギのドレイズ試験の2報告で、皮膚一次刺激性指標値 (PII値) は、それぞれ、1.56、1.83 (ECETOC TR 66(1995)) であり、いずれも2.3より低いため区分外とした。
- [1-(2-aminoethyl)piperazine]: ウサギのドレイズ試験において、投与時間が24時間であるが「腐食性」との記述があり、皮膚の壊死がみられる (IUCRID,2000) こと、さらにEU分類において、R34で腐食性 (EU-Annex I, access on 11.2008) であることから、区分1とした。なお、HSDB(2002)にヒトへの健康影響について、「皮膚、眼、呼吸器において組織に強い刺激をあたえる」との記述がある。
- [1,3-Bis (Aminomethyl) benzene]: ACGIH (7th, 2001) のモルモットの皮膚に原液の適用で腐食性があるとの記述、SIDS (2001)、ラットの皮膚への適用で3分後に皮下出血、5分後には壊死が認められ、60分後に6匹全例に皮膚の紅斑、浮腫、出血、壊死が認められたとの記述およびマウスへの皮膚適用により60分以内に出血、壊死が認められていることから、腐食性があると判断し、区分1Bとした。
- [N,N-dimethylbenzylamine]: ウサギを用いたDraize試験においてスコア4以上、重度の刺激性とされている (ECETOC TR 66 (1995)) ことから区分1とした。なおEUはR34に分類している。
- [Phenol]: ウサギを用いた皮膚刺激性試験のデータ (EHC 161 (1994)) 及びヒトへの健康影響のデータ (EHC 161 (1994)) から皮膚腐食性があると判断し区分1とし、細区分できるデータがないため1A-1Cとしたが、安全性の観点から、1Aとした方が望ましい。

○眼に対する重篤な損傷/刺激性

- [4,4'-(1-Methylethylidene)bisphenol]: EU-RAR No.37 (2003) のウサギを用いた眼刺激性試験結果「3匹中1匹に角膜混濁と虹彩炎の28日間持続が認められた。」などに基づいた結論の記述「腐食性を示さないが、重度 (severe) な眼刺激性を示す。」から、非常に強い刺激性を有すると考えられ、区分1とした。
- [Nonylphenol]: CERI・NITE有害性評価書 No.1 (2004) の記述「中等度から強度の眼刺激性を示す。」及びEU-RAR No.10 (2002) の記述「ノニルフェノールは強度 (severe) の眼刺激性を有し、21日間の観察中に完全に回復しない角膜混濁が認められた。」から、「非常に強い刺激性を有する」と考えられ、区分1とした。
- [Benzyl alcohol]: ウサギを用いた眼刺激性試験 (OECD TG 405) で、中等度の刺激性 (moderately irritating) (SIDS (2008)) に基づいて区分2とした。
- [1-(2-aminoethyl)piperazine]: 皮膚腐食性物質であることから、区分1とした。なお、HSDB(2002) に、ヒトへの健康影響について、「皮膚、眼、呼吸器において組織に強い刺激をあたえる」との記述がある。
- [1,3-Bis (Aminomethyl) benzene]: SIDS (2001) にラットを用いた試験において皮膚腐食性とするデータがあることから、区分1とした。
- [N,N-dimethylbenzylamine]: ウサギのDraize試験で重度の刺激性とされ (RTECS (2008))、皮膚刺激性は区分1であることから区分1とした。
- [Phenol]: ウサギを用いた眼刺激性試験のデータ (EHC 161(1994)) から数値的表示はないが10%グリセリン溶液、又は5%水溶液の眼への適用で「角膜の完全な混濁がみられた」とあり、眼に対する非可逆的作用と判断し区分1とした。

○呼吸器感受性

- データなし

○皮膚感受性

- [4,4'-(1-Methylethylidene)bisphenol]: EU-RAR No.37 (2003) のモルモットを用いた皮膚感受性試験結果とヒトの症例報告の記述から、ビスフェノールAは皮膚感受性の可能性を示していると考えられるとともに、日本接触皮膚炎学会は皮膚感受性ありと分類していることから、皮膚感受性を有すると考えられ、「区分1」とした。
- [Nonylphenol]: CERI・NITE有害性評価書 No.1 (2004) の記述「モルモットに対するマキシマイゼーション試験では感受性を示さない。」及びEU-RAR No.10 (2002) の記述「モルモットに対するマキシマイゼーション試験の結果から、ノニルフェノールは皮膚感受性を有しないことが示唆される。」から、ノニルフェノールは皮膚感受性を示さないと考えられ、区分外とした。
- [Benzyl alcohol]: データ不足により分類できない。なお、2261人のボランティアに対するパッチテストにおいて約1%に陽性反応がみられたが、他方、本研究の最大投与量 (10%濃度、48時間×5回) のテストにおいても25人の被験者には感受反応が現れなかったとの報告がある。
- [1-(2-aminoethyl)piperazine]: モルモットのMaximization試験 (OECDテストガイドライン406、非GLP) において、15匹中15匹 (100%) に感受反応がみられた (IUCRID,2000) こと、またEU分類においてR43 (EU-Annex I, access on 11.2008) であることから、区分1とした。
- [1,3-Bis (Aminomethyl) benzene]: SIDS (2001) のモルモットを用いたmaximization testにおいて感受性陽性率が70%であったとの記述から、区分1とした。
- [Phenol]: 呼吸器感受性: モルモットを用いたMugnussen and Kligman skin sensitization test (EHC 191(1994))、マウスを用いたMEST法 (NITE初期リスク評価書 No.32 (2005)) でともに陰性、及びヒトボランティアの試験 (NITE初期リスク評価書 No.32 (2005)) で陰性のため、区分外とした。

○発がん性

* IARC

- [Phenol] : Group 3

* OSHA

- データなし

* ACGIH

- [Phenol] : A4

* NTP

- データなし

* EU CLP

- データなし

○生殖細胞変異原性

- [4,4'-(1-Methylethylidene)bisphenol] : EU-RAR No.37(2003)、CERI・NITE有害性評価書 No.4 (2005) の記述より、生殖細胞in vivo経世代変異原性/変異原性試験なし（優性致死試験での陰性結果は、EU-RARでも信頼性について判断できないとしているため分類データとして採用できないと判断した）、体細胞を用いたin vivo変異原性試験（小核試験）で陰性であることから、区分外とした。

- [Nonylphenol] : EU-RAR No.10 (2002)の記述から、経世代変異原性試験でなし、生殖細胞in vivo変異原性試験なし、体細胞in vivo変異原性試験(小核試験)で陰性であることから、区分外とした。

- [Benzyl alcohol] : マウスを用いた腹腔内投与によるin vivo小核試験（OECD TG474）(体細胞in vivo変異原性試験)で陰性結果(SIDS(2008))が報告されていることから、区分外とした。なお、Ames試験・大腸菌の点変異試験・CHO細胞の細胞遺伝学的試験など多数のinvitro変異原性試験報告があるが、曖昧な判定結果を除き20報告中13例の陰性結果（SIDS(2008)）、及び3例の陽性結果ある（SIDS(Access on June, 2008)）。

- [1-(2-aminoethyl)piperazine] : in vivoのデータがなく、in vitro変異原性試験(Ames試験 : OECDテストガイドライン 471, GLP、培養ヒトリンパ球を用いた染色体異常試験 : OECDテストガイドライン473, GLP、チャイニーズ・ハムスターV79細胞を用いたHGPRT試験 : OECDテストガイドライン476, GLP、マウスリンフォーマ試験 : OECDテストガイドライン476, GLP) の陰性結果 (IUCLID, 2000)のみで分類できないとした。

- [1,3-Bis (Aminomethyl) benzene] : 体細胞を用いるin vivo変異原性試験であるマウス赤血球を用いた小核試験で陰性の結果（SIDS, 2001、ACGIH 7th, 2001）があることから、区分外とした。

- [N,N-dimethylbenzylamine] : in vivo変異原性試験のデータがなく、複数指標のin vitro変異原性試験の陽性データもないことから分類できない。なお、エイムス試験は陰性（厚労省報告 (Access On Sep. 2008)）、CHL細胞を用いた染色体異常試験は陽性（厚労省報告 (Access On Sep. 2008)）である（いずれもin vitro変異原性試験）。

- [Phenol] : CERI・NITE有害性評価書 No.32 (2005)、NTP DB (Access on Dec., 2005) の記述から、経世代生殖細胞変異原性試験なし、生殖細胞in vivo変異原性試験（染色体異常試験）で陽性であることから、区分1Bとした。

○生殖毒性

- [4,4'-(1-Methylethylidene)bisphenol] : CERI・NITE有害性評価書 No.4(2005)の記述から、ラットの三世代試験及びマウスの二世代試験において同様の影響（産児数の減少）がみられ、マウスでは精囊、精巣上体重量の減少及び精子への影響もみられているが、親動物の毒性一般毒性があるまたは記述なしであることから、区分2とした。

- [Nonylphenol] : CERI・NITE有害性評価書 No.1 (2004)の記述から、ラットの生殖毒性試験、3世代生殖毒性試験で、母動物に影響がみられない濃度で児に影響（体重増加抑制、摂餌量減少、子宮重量増加等）がみられることから、区分1Bとした。

- [Benzyl alcohol] : ラットの4世代経口投与試験において、用量750mg/kg/day以下では、繁殖力、授乳、発育、催奇性に影響なしと報告されているが、仔の発生毒性に関するデータが不十分であるため分類できないとした。

- [1-(2-aminoethyl)piperazine] : ラットを用いた生殖毒性試験において、精子形成に影響あり（IUCLID, 2000）との結果があるが、詳しい記述が無く、また仔の発生に対する毒性も不明であるので分類できないとした。

- [1,3-Bis (Aminomethyl) benzene] : 厚労省報告(2005)およびSIDS (2001)のラットを用いた経口投与簡易生殖毒性試験において親動物に一般毒性が認められる用量でも生殖毒性が認められなかったとの記述から、区分外とした。

- [Phenol] : CERI・NITE有害性評価書No.32(2005)の記述から、親動物に一般毒性影響のみられない用量で、産児数の減少がみられたこと（Narotsky and Kavlock, 1995）による。

○標的臓器／全身毒性（単回暴露）

- [4,4'-(1-Methylethylidene)bisphenol] : 実験動物については、「傾眠、衰弱、わずかな鼻腔上皮組織の発赤、わずかな鼻道への潰瘍形成」（EU-RAR No.37 (2003)）等の記述があることから、呼吸器を標的臓器とし、麻酔作用をもつと考えられた。評価書中には「わずかな」の記載があるが、潰瘍の形成がみられているため、気道刺激性とはしなかった。なお、影響は区分1に相当するガイダンス値の範囲で見られた。以上より、分類は区分1（呼吸器）、区分3（麻酔作用）とした。

- [Benzyl alcohol] : ラットのLD50値（経口）で用量1230 mg/kg、1660mg/kg、マウスのLD50値（経口）で用量1360 mg/kg、また、ラット・マウスの吸入試験、以上〔RTECS (2007)〕において嗜眠・昏睡・運動失調などの神経毒性諸症状を示す報告があるが、リスト3のデータであるため分類できないとした。

- [1-(2-aminoethyl)piperazine] : ヒトへの健康影響について、「皮膚、眼、呼吸器において組織に強い刺激をあたえる」（HSDB, 2002）との記述があり、気道刺激性が考えられるが、詳しい内容が無く、試験データも無いため分類できないとした。

- [1,3-Bis (Aminomethyl) benzene] : ACGIH (7th, 2001)およびSIDS (2001)のラットを用いた吸入暴露試験において呼吸器への影響が区分1のガイダンス値範囲の濃度で認められたとの記述から、区分1（呼吸器）とした。

- [Phenol]: ヒトについては、「心臓、血管に対する影響」、「呼吸数過多、呼吸困難、心臓律動不整、心血管性ショック、重度の代謝性アシドーシス、メヘモグロビン血症、急性腎不全、腎臓障害、暗色尿、けいれんなどの神経系への影響」(CERI・NITE有害性評価書 No.32 (2005))、「心臓の律動異常」(EHC 161 (1994))、「不整脈及び徐脈」(ATSDR (1998))等の記載、実験動物については、「瞳孔反射の強い抑制」(CERI・NITE有害性評価書 No.32 (2005))の記載があることから、呼吸器、心血管系、腎臓、神経系が標的器官と考えられた。なお、実験動物に対する影響はいずれも区分1に相当するガイダンス値の範囲でみられた。以上から、分類は区分1(呼吸器、心血管系、腎臓、神経系)とした。

○ 標的臓器／全身毒性（反復暴露）

- [4,4'-(1-Methylethylidene)bisphenol]: 実験動物については、「鼻腔上皮組織の発赤、鼻道への潰瘍形成、肝臓、腎臓、肺で形態の変化」(EU-RAR No.37 (2003))等の記述があることから、呼吸器、肝臓、腎臓が標的臓器と考えられた。なお、実験動物に対する影響は、区分2に相当するガイダンス値の範囲でみられた。以上より、分類は区分2(呼吸器、肝臓、腎臓)とした。

- [Nonylphenol]: 実験動物について、「腎尿細管上皮の変性及び尿管の拡張」(CERI・NITE有害性評価書 No.1 (2004))の記載がみられ、その影響は、区分2に相当するガイダンス値の範囲でみられた。分類は区分2(腎臓)とした。

- [Benzyl alcohol]: ラットの強制経口投与試験 (50, 100, 200, 400, 800 mg/kg/d, 13週)において、800mg/kg/d投与群に神経毒性症状(呼吸困難、昏睡状態)が報告されており、これは区分外に該当する (SIDS (2008); IUCLID(2000))。しかし、他経路のデータがない。よって分類できないとした。

- [1,3-Bis (Aminomethyl) benzene]: 厚労省報告(2005)およびSIDS (2001)のラットを用いた経口投与試験において区分2のガイダンス値範囲を超える用量でも胃粘膜に対する障害以外に重大な毒性作用は認められなかったとの記述から、区分外とした。皮膚腐食性があることから、経口投与による消化器系への影響は局所影響と判断し、標的臓器としなかった。

- [N,N-dimethylbenzylamine]: ラットの28日間の強制経口投与試験でNOELは雌雄とも50 mg/kg/day (90日補正用量: 15.5mg/kg/day)とされ (厚労省報告 (Access On Sep. 2008))ガイダンスの区分2に相当する100, 200mg/kg (90日補正用量: 33.3mg/kg/day, 66.6mg/kg/day)で臓器重量、生化学値のわずかな変化以外に顕著な影響は認められていない。一方、ラットの90日吸入ばく露のガイダンスの区分1の用量0.15mg/Lにおいて、肝臓の脂肪変性、腎臓の尿細管の変性が見られ (RTECS (2008))、他のラットの吸入ばく露においてもガイダンスの区分1の用量0.035mg/Lにおいて6ヶ月で腎臓の尿細管の変性が認められる (RTECS (2008))が、リスト3のデータであり、他に情報がなくデータ不足で分類できない。

- [Phenol]: ヒトについては、「心血管系疾患に起因する死亡率の増加」(CERI・NITE有害性評価書 No.32 (2005))、「非抱合型新生児高ビリルビン血症」(EHC 161 (2000))、「吐き気、嘔吐、下痢、腹痛、溶血性貧血、メヘモグロビン血症、糸球体変性、尿管壊死、乳頭細胞出血」(ATSDR (1998))等の記述、実験動物については、「赤血球数の有意な減少、腎臓で尿細管のタンパク円柱及び壊死、乳頭出血、脾臓/胸腺の萎縮/壊死、肝細胞の空胞変性、中枢神経系への重篤な影響 (傾斜板試験上での行動)、肝臓障害」(CERI・NITE有害性評価書 No.32 (2005))等の記述があることから、心血管系、肝臓、消化管、血液系、腎臓、脾臓、胸腺、中枢神経系が標的臓器と考えられた。なお、実験動物に対する影響は、区分1に相当するガイダンス値の範囲でみられた。以上より、分類は区分1(心血管系、肝臓、消化管、血液系、腎臓、脾臓、胸腺、中枢神経系)とした。

○ 吸入有害性

- データなし

12. 生態学的情報

A. 生態毒性

○ 魚類

- [Benzyl alcohol]: 魚類 (ファットヘッドミノー) の96時間LC50 = 460 mg/L
- [N,N-dimethylbenzylamine]: 魚類 (ファットヘッドミノー) の96時間LC50 = 37.8 mg/L

○ 甲殻類

- [4,4'-(1-Methylethylidene)bisphenol]: 甲殻類 (ミシドシュリンブ) の96時間LC50 = 1100µg/L
- [Nonylphenol]: 甲殻類 (ヨコエビ科) の96時間EC50 = 0.0127mg/L
- [Benzyl alcohol]: 甲殻類 (オオミジンコ) の48時間EC50 = 230 mg/L
- [1-(2-aminoethyl)piperazine]: 甲殻類 (オオミジンコ) の48時間EC50 = 32 mg/L
- [Phenol]: 甲殻類 (ネコゼミジンコ属) の48時間LC50 = 3.1mg/L

○ 藻類

- [Benzyl alcohol]: 藻類の72時間EC50 = 770 mg/L
- [1,3-Bis (Aminomethyl) benzene]: 藻類 (セネデスス) の72時間ErC50 = 14mg/L

B. 残留性と分解性

○ 残留性

- データなし

○ 分解性

- データなし

C. 生体蓄積性

○ 生体蓄積性

- データなし

○ 生分解性

- データなし

D. 土壌中の移動性

- データなし

E. オゾン層への有害性

- データなし

F. その他の有害な影響

- [4,4'-(1-Methylethylidene)bisphenol] : 急速分解性があり（河川水を用いた生分解性試験では、ビスフェノールAは試験開始2～4日後から分解が開始し、二酸化炭素発生量測定による分解率は18日後には平均で76%であった（CERI・NITE有害性評価書、2005））、かつ生物蓄積性が低い（BCF=67.7（既存化学物質安全性点検データ））ことから、区分外とした。
- [Nonylphenol] : 急性毒性が区分1、生物蓄積性が低いものの（BCF=330（既存化学物質安全性点検データ））、急速分解性がない（BODによる分解度:0%（既存化学物質安全性点検データ））ことから、区分1とした。
- [Benzyl alcohol] : 難水溶性でなく（水溶解度=40 g/L（SIDS, 2004））、急性毒性が区分外であることから、区分外とした。
- [1-(2-aminoethyl)piperazine] : 急性毒性区分3であり、急速分解性がない（難分解性、BODによる分解度：0%（既存点検、2004））ことから、区分3とした。
- [1,3-Bis (Aminomethyl) benzene] : 急性毒性が区分3、生物蓄積性が低いものの（BCF<2.7（既存化学物質安全性点検データ））、急速分解性がない（BODによる分解度：22%（既存化学物質安全性点検データ））ことから、区分3とした。
- [N,N-dimethylbenzylamine] : 急性毒性区分3であり、急速分解性がない（難分解性、BODによる分解度：1%（既存点検、1988））ことから、区分3とした。
- [Phenol] : 急速分解性があり（BODによる分解度：85%（既存化学物質安全性点検データ））、かつ生物蓄積性が低いと推定される(log Kow=1.46（PHYSPROP Database、2005））ことから、区分外とした。

13. 廃棄上の注意

A. 廃棄方法

- 油と水の分離が可能なのは、油と水の分離方法で事前処理すること。
- 焼却して処理する
- 廃棄物管理法上の規定を遵守すること。

B. 廃棄上の注意

- データなし

14. 輸送上の注意

A. 国連番号

- 3267

B. 国連輸送固有名

- Corrosive liquid, basic, organic, n.o.s.

C. 輸送危険クラス（ES）：

- 8

D. 包装等級

- III

E. 海洋汚染物質

- [Nonylphenol] : 該当する

F. 輸送の特定の安全対策及び条件

- DOTおよびその他の規定により包装または輸送すること。
- 火災時の非常措置の種類：F-A (General fire schedule)
- 流出時の非常措置の種類：S-B (Corrosive substances)

G. 緊急時応急措置指針(容器イエローカード)番号

- 153

15. 適用法令

A. 日本国内規制事項

○ 消防法

- 第4類第3石油類(水溶性液体)

*** 危険等級**

- III

○ 労働安全衛生法

*** 表示物質**

- 法第57条第1項、施行令第18条第1号、第2号・別表第9 (555 メタキシレンジアミン, 474 フェノール, 530の2 ベンジールアルコール)

*** 通知物質**

- 法第57条の2、施行令第18条の2第1号、第2号・別表第9 (555 メタキシレンジアミン, 474 フェノール, 530の2 ベンジールアルコール)

*** その他**

- エポキシ樹脂硬化剤健康障害防止通達該当

○ PRTR法

- 第1種指定化学物質

第37号 4, 4'-イソプロピリデンジフェノール

第349号 フェノール

第320号 ノニルフェノール

B. 他の国内および国際法律情報

○ 残留性有機汚染物質規制法

- 該当なし

○ EU 分類情報

*** 分類**

- [4,4'-(1-Methylethylidene)bisphenol] : Repr. Cat. 3; R62 Xi; R37-41 R43 R52

- [Nonylphenol] : Repr.Cat.3; R62/Repr.Cat.3; R63/Xn; R22/C; R34/N; R50-53

- [Benzyl alcohol] : Xn; R20/22

- [1-(2-aminoethyl)piperazine] : Xn; R21/22 C; R34 R43 R52-53

- [N,N-dimethylbenzylamine] : R10 Xn; R20/21/22 C; R34 R52-53

- [Phenol] : Muta.Cat.3; R68 T; R23/24/25 Xn; R48/20/21/22 C; R34

*** 危険有害性情報**

- [4,4'-(1-Methylethylidene)bisphenol] : R37, R41, R43, R62, R52

- [Nonylphenol] : R22, R34, R62, R63, R50/53

- [Benzyl alcohol] : R20/22

- [1-(2-aminoethyl)piperazine] : R21/22, R34, R43, R52/53

- [N,N-dimethylbenzylamine] : R10, R20/21/22, R34, R52/53

- [Phenol] : R23/24/25, R34, R48/20/21/22, R68

*** 注意書き**

- [4,4'-(1-Methylethylidene)bisphenol] : S2, S26, S36/37, S39, S46, S61

- [Nonylphenol] : S1/2, S26, S36/37/39, S45, S46, S60, S61

- [Benzyl alcohol] : S2, S26

- [1-(2-aminoethyl)piperazine] : S1/2, S26, S36/37/39, S45, S61

- [N,N-dimethylbenzylamine] : S1/2, S26, S36, S45, S61

- [Phenol] : S1/2, S24/25, S26, S28, S36/37/39, S45

○ 米国の管理情報

*** OSHA規定 (29CFR1910.119)**

- 該当なし

*** CERCLA 103 規制 (40CFR302.4)**

- [Phenol] : 453.599 kg 1000 lb

*** EPCRA 302 規制 (40CFR355.30)**

- [Phenol] : 226.7995/4535.99 kg 500/10000 lb

*** EPCRA 304 規制 (40CFR355.40)**

- [Phenol] : 453.599 kg 1000 lb

*** EPCRA 313 規制 (40CFR372.65)**

- [4,4'-(1-Methylethylidene)bisphenol] : 該当する

- [Phenol] : 該当する

○ ロッテルダム協約物質

- 該当なし

○ スtockホルム協約物質

- 該当なし

○ モントリオール議定書物質

- 該当なし

16. その他注意事項

A. 参考文献

- このSDSはKOSHA、NITE、ESIS、NLM、SIDS、IPCSなどに基づいて作成してある。
- 危険及び有害性評価は十分ではないので、お取り扱いには十分にご注意ください。
- 本製品安全データシートは当社の製品を適切に使用するために注意する事項を簡単に整理したもので、通常の取り扱いを対象に作成されております。
- ここに記載された内容は現時点で入手出来た情報やメーカー所有の知見に基づいて作成しており、そのデータや評価はいかなる保証をなすものではありません。
- 法令の改訂及び新しい知見により改訂されることがあります。
- GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法ーラベル、作業場内の表示及び安全データシート(SDS) JIS Z 7253

B. 作成日

- 2014-10-06

C. 改訂回数及び最終改訂日

- 5 times, 2021-01-06

D. その他

- この情報は労働者の健康、環境、安全を保護するため、現在使用可能なDBに基づいて作成してある。



安全データシート(SDS)

フロアパッチFC プライマー 主剤

発行日: 2014-10-06

改訂日付: 2015-10-21

バージョン: R0001.0003

1. 化学製品および会社情報

A. 製品名

- フロアパッチFC プライマー 主剤

B. 製品の勧告用途と使用上の制限

- 用途 : コンクリート補修剤用プライマー 主剤
- 使用上の制限 : 所定の用途以外に使用しないこと

C. 製造業者/供給者/流通業者情報

○ 製造者情報

- 製造元/供給元 : ITW Polymers Adhesives, North America
- 住所 : 30 Endicott Street, Danvers, MA 01933

○ 供給者/販売者情報

- 供給元/販売元 : 株式会社ITWパフォーマンスポリマーズ & フルイズ ジャパン
- 住所 : 〒564-0053 大阪府吹田市江の木町30-32
- 担当部署 : 品質管理部
- 電話 : 06-6330-7118
- FAX : 06-6330-7083

2. 危険有害性情報

A. GHS分類

- 皮膚腐食性/刺激性: 区分2
- 皮膚感作性: 区分1
- 慢性水生環境有害性: 区分4

B. 予防措置文句を含む警告表示項目

○ シンボル



○ 信号語

- 警告

○ 危険有害性情報

- H315 皮膚刺激
- H317 アレルゲン性皮膚反応を起こすおそれ
- H413 長期的影響により水生生物に有害のおそれ

○ 注意書き

1) 予防

- P261 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレートの吸入を避けること。
- P264 取扱後は手をよく洗うこと。
- P272 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
- P273 環境への放出を避けること。
- P280 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

2) 対応

- P302+P352 皮膚に付着した場合: 多量の水と石鹸で洗うこと。
- P321 特別な処置が必要である
- P332+P313 皮膚刺激が生じた場合: 医師の診断/手当てを受けること。
- P333+P313 皮膚刺激または発疹が生じた場合: 医師の診断/手当てを受けること。
- P362 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
- P363 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。

3) 保存

- 該当なし

4) 廃棄

- P501 内容物/容器を都道府県/市町村の法令・規則に従って廃棄すること。

C. 有害・危険性分類基準に含まれてないその他の有害・危険性

- NFPA等級（0～4段階）
 - 保健：2, 火災：1, 反応性：0

3. 組成及び成分情報

- 単一製品・混合物の区別 : 混合物
- 一般名 : エポキシ樹脂組成物

化学物質名	慣用名及び異名	CAS No.	官報公示番号	PRTR法	含有量(%)
ビスフェノールA／エピクロロヒドリンコポリマー	-	25068-38-6	-	-	60-70
フェノールノボラック型エポキシ樹脂	-	登録済み	登録済み	-	10-20
オキシラン類	-	68609-97-2	-	-	10-20

*GHS危険有害性分類対象物質と日本国内法規制対象物質のみ記載

4. 応急措置**A. 眼への接触**

- 眼をこすらないこと。
- 大量の水を使用して、少なくとも15分間眼を洗い流すこと。

B. 皮膚に付着した場合

- データなし

C. 吸入毒性

- 多量の蒸気やミストに曝露された場合、直ちに新鮮な空気のある場所に移すこと。
- 必要に応じて適切な措置をとること。

D. 飲み込んだ場合

- 嘔吐をすべきかどうかについては医師の助言を取ること。
- 直ちに水で口をすすぐこと。

E. 急性および遅延性の主な症状/影響

- データなし

F. 応急処置および医師の注意事項

- データなし

5. 火災時の措置**A. 消火剤**

- 粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂

B. 使ってはならない消火剤

- 水、泡（炎を拡散する可能性がある）

C. 特有の危険有害性

- 消火活動の際には有毒ガスが発生するので、煙を吸入しないように注意する。

D. 特定の消化方法

- 適切な保護具を着用する。防護服を着用していない人を作業場から遠ざける。可燃性のものを周囲から素早く取り除く。爆発のリスクを最小限にする為、霧状の水を使用して容器を冷却する。

E. 消化を行う者の保護

- 空気呼吸器を含め、必要に応じて適切な保護具（耐熱性）を着用すること。

6. 漏出時の措置**A. 人体を保護するために必要な注意事項**

- 密閉された空間に出入りする前に、換気を実施すること。
- 風上で作業して、風下にいる人を非難させること。
- 漏出し物質に触れないこと。作業者が危険なく漏れを停止させることができれば停止すること。
- 保護具を着用した後、破損した容器あるいは漏洩された物質を処理すること。

- 皮膚との接触、吸入を避けること。

B. 環境に対する注意事項

- 漏出物が下水施設、水系に流入しないようにすること。
- 漏出量が多い場合、119や環境省、地方環境管理庁、市・道（環境指導課）に通報すること。

C. 浄化方法

- 大量漏出の場合、低い領域を避け、風上に止まること。後日処理のために堤防を築造して管理すること。
- 基準量以上排出時、中央政府、地方公共団体の排出の内容を通知すること。
- 廃棄物管理法（環境省）により処理すること。
- 漏出物質廃棄のため、適切な容器に回収すること。

7. 取扱い及び保管上の注意

A. 安全な取り扱いのための注意事項

- すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。

B. 安全保管条件

- 漏れがないよう、定期的に点検すること。
- 密閉容器に入れて回収すること。

8. 暴露防止及び保護措置

A. 許可濃度

- 日本許容濃度
 - 該当なし
- ACGIHの暴露標準
 - データなし

B. 設備対策

- 作業所はできるだけ自動化し、混合、加熱工程等の設備はできるだけ密閉構造にする。取扱場所の近くに手洗い、洗眼設備等を設け、その位置を明示する。

C. 個人防護具

- 呼吸保護
 - 使用前に警告の特性を考慮すること。
- 眼の保護
 - 作業場の近くに洗顔設備と非常洗浄設備（シャワー式）を設置すること。
- 手の保護
 - 適切な保護手袋を着用すること。
- 身体の保護
 - 適切な保護服を着用すること。
- その他
 - データなし

9. 物理化学的特性

A. 外観	
- 性状	液状
- 色	青色
B. 臭い	微香
C. 臭気閾値	データなし
D. pH	中性
E. 融点/凝固点	データなし
F. 沸点、初留点及び沸騰範囲	> 260 °C
G. 引火点	> 148.8 °C
H. 蒸発速度	<<1(酢酸ブチル=1)
I. 引火性（固体、気体）	データなし
J. 燃焼又は爆発範囲下限/上限	データなし
K. 蒸気圧	0.03mmHg@77.2°C
L. 溶解度	データなし
M. 蒸気密度	>1(空気=1)
N. 比重	1.1-1.3
O. 水/n-オクタノール分配係数	データなし

P. 自然発火温度	データなし
Q. 熱分解温度	データなし
R. 粘度	データなし
S. 分子量	データなし

10. 安定性及び反応性

A. 安定性

- 推奨された保管と取り扱いの場合、安定する。

B. 有害反応の可能性

- 強ルイス酸、無機酸、強酸化剤、強無機塩基及び有機塩基(特に一級及び二級脂肪族アミン類)との混触は避ける。

C. 避けるべき条件

- 高温、火花及び直火。混触禁止物質、酸化剤及び酸化する環境。空気中で材料を148℃以上に熱するとゆっくりと酸性分解する可能性がある。

D. 混触危険物質

- 強ルイス酸、無機酸、強酸化剤、強無機塩基及び有機塩基(特に一級及び二級脂肪族アミン類)

E. 危険有害な分解生成物

- 燃焼などによりCO等の有害ガスを発生するおそれがある。

11. 毒性に関する情報

A. 暴露の可能性が高いルートに関する情報

- (呼吸器)
 - データなし
- (経口)
 - データなし
- (眼・皮膚)
 - 皮膚刺激
 - アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ

B. 毒性と刺激性

- 急性毒性
 - * 経口毒性
 - [4,4'-(1-methylethylidene)bisphenol polymer with (chloromethyl)oxirane]: ラットに対する経口投与のLD50=>1,000 mg/kg、11,400 mg/kg、13,600 mg/kg (以上、CERIハザードデータ集 2001-36 (2002))に基づき、確定値のうち低い値のLD50=11,400 mg/kgから、区分外とした。
 - [Oxirane, mono[(alkyl(C=12-14)oxy)methyl] derivs.]: LD50(動物種記載なし)=19.2 mL/kg(重量換算値17.1g/kg) (PATY (5th, 2001)及びLD50(ラット)=17100mg/kg(RTECS (1999))は区分外に該当する。
 - * 経皮毒性
 - [4,4'-(1-methylethylidene)bisphenol polymer with (chloromethyl)oxirane]: ラットに対する経皮投与のLD50=>1,600 mg/kg (CERIハザードデータ集 2001-36 (2002))に基づき、区分4以上に分類されることが考えられるが、確定値が得られていないので、「分類できない」とした。
 - * 吸入毒性
 - データなし
- 皮膚腐食性/刺激性
 - [4,4'-(1-methylethylidene)bisphenol polymer with (chloromethyl)oxirane]: CERIハザードデータ集 2001-36 (2002)、DFGOTvol.19 (2003) のウサギに対する皮膚一次刺激性試験結果の記述「皮膚刺激性について刺激性なしから中等度の刺激性を有する」から、4時間適用試験結果はないが、刺激性を有すると考えられ、区分2とした。
 - [Oxirane, mono[(alkyl(C=12-14)oxy)methyl] derivs.]: アルキルグリシジルエーテルは中等度の皮膚刺激性 (ドレイズスコア 3~4) との記載がある (PATY (5th, 2001) ことから区分2とした。なお、ウサギを用いたドレイズ試験で中等度の刺激性 (RTECS(1999)) とされ、EUがXi; R38 (EU-Annex I (Access on 2 2009))に分類している。
- 眼に対する重篤な損傷/刺激性
 - [4,4'-(1-methylethylidene)bisphenol polymer with (chloromethyl)oxirane]: CERIハザードデータ集 2001-36 (2002)のウサギに対する眼刺激性試験結果の記述「刺激性なしから軽度の刺激性を有する」から、軽度の刺激性を有すると考えられ、区分2Bとした。
 - [Oxirane, mono[(alkyl(C=12-14)oxy)methyl] derivs.]: アルキルグリシジルエーテルは軽微な刺激性とされている(PATY (5th, 2001) ことから区分2Bとした。
- 呼吸器感作性
 - [4,4'-(1-methylethylidene)bisphenol polymer with (chloromethyl)oxirane]: 呼吸器感作性: データなし 皮膚感作性: CERIハザードデータ集 2001-36 (2002)、DFGOTvol.19 (2003) のヒトにおける症例研究やボランティア試験の結果、また、モルモットに対する皮膚感作性試験結果の記述及び日本職業・環境アレルギー学会による「皮膚感作性物質」という分類結果から、皮膚感作性を有すると考えられ、区分1とした。

- [Oxirane, mono[(alkyl(C=12-14)oxy)methyl] derivs.] : (呼吸器感作性) データなし。(皮膚感作性) アルキルグリシジルエーテルは感作性ありとされ (PATTY, (5th 2001)), EUでは Xi; R43(EU-Annex I (Access on 2 2009))に分類されていることから区分1とした。

○ 皮膚感作性

- データなし

○ 発がん性

* IARC

- データなし

* OSHA

- データなし

* ACGIH

- データなし

* NTP

- データなし

* EU CLP

- データなし

○ 生殖細胞変異原性

- [4,4'-(1-methylethylidene)bisphenol polymer with (chloromethyl)oxirane] : DFGOT vol.19 (2003) の記述から、経世代変異原性試験 (優性致死試験) で陰性、生殖細胞in vivo変異原性試験 (染色体異常試験) で陰性、体細胞in vivo変異原性試験 (小核試験、染色体異常試験) で陰性であることから、区分外とした。

- [Oxirane, mono[(alkyl(C=12-14)oxy)methyl] derivs.] : マウスを用いた経皮投与による優性致死試験 (In vivo経世代変異原性試験) で陰性 (PATTY (5th, 2001)) であることから区分外とした。なお、In vitro変異原性試験 : マウスリンフォーマ試験は陰性、Ames試験は陰性または弱い陽性である (いずれもPATTY (5th, 2001))。

○ 生殖毒性

- [4,4'-(1-methylethylidene)bisphenol polymer with (chloromethyl)oxirane] : PATTY (4th, 2000) 及びDFGOT vol.19 (2003) の記述から、生殖毒性試験、催奇形性試験のいずれにおいても、親動物毒性がみられる用量で生殖及び発生への影響がみられていないことから、区分外とした。

○ 標的臓器/全身毒性 (単回暴露)

- データなし

○ 標的臓器/全身毒性 (反復暴露)

- データなし

○ 吸入有害性

- データなし

12. 生態学的情報

A. 生態毒性

○ 魚類

- データなし

○ 甲殻類

- [4,4'-(1-methylethylidene)bisphenol polymer with (chloromethyl)oxirane] : 甲殻類 (オオミジンコ) の48時間EC50=1.7mg/L

○ 藻類

- データなし

B. 残留性と分解性

○ 残留性

- データなし

○ 分解性

- データなし

C. 生体蓄積性

○ 生体蓄積性

- データなし

○ 生分解性

- データなし

D. 土壌中の移動性

- データなし

E. オゾン層への有害性

- データなし

F. その他の有害な影響

- [4,4'-(1-methylethylidene)bisphenol polymer with (chloromethyl)oxirane] : 急性毒性が区分1、生物蓄積性が低いものの (BCF ≤42 (既存化学物質安全性点検データ))、急速分解性がない (BODによる分解度 : 0% (既存化学物質安全性点検データ)) ことから、区分1とした。

13. 廃棄上の注意**A. 廃棄方法**

- 油と水の分離が可能なのは、油と水の分離方法で事前処理すること。
- 焼却して処理する
- 廃棄物管理法上の規定を遵守すること。

B. 廃棄上の注意

- データなし

14. 輸送上の注意**A. 国連番号**

- 3082

B. 国連輸送固有名

- Other regulated substances, liquid, n.o.s.

C. 輸送危険クラス (ES) :

- 9

D. 包装等級

- III

E. 海洋汚染物質

- 該当なし

F. 輸送上の特定の安全対策及び条件

- DOTおよびその他の規定により包装または輸送すること。
- 火災時の非常措置の種類 : F-A (General fire schedule)
- 流出時の非常措置の種類 : S-F (Water-soluble marine pollutants)

G. 緊急時応急措置指針(容器イエローカード)番号

- 171

15. 適用法令**A. 日本国内規制事項**

- 消防法
 - 第4類第3石油類(水溶性液体)
- * 危険等級
 - III
- 労働安全衛生法
 - * その他
 - 変異原性物質(ビスフェノールA型エポキシ樹脂)
- 労働基準法
 - 平成8年労働基準局長通達 基発第182号13 ビスフェノールA型エポキシ樹脂

B. 他の国内および国際法律情報

- 残留性有機汚染物質規制法
 - 該当なし
- EU 分類情報
 - * 分類
 - [4,4'-(1-methylethylidene)bisphenol polymer with (chloromethyl)oxirane] : Xi; R36/38 R43 N; R51-53
 - [Oxirane, mono[(alkyl(C=12-14)oxy)methyl] derivs.] : Xi; R38, R43
 - * 危険有害性情報
 - [4,4'-(1-methylethylidene)bisphenol polymer with (chloromethyl)oxirane] : R36/38, R43, R51/53
 - [Oxirane, mono[(alkyl(C=12-14)oxy)methyl] derivs.] : R38, R43
 - * 注意書き
 - [4,4'-(1-methylethylidene)bisphenol polymer with (chloromethyl)oxirane] : S2, S28, S37/39, S61
 - [Oxirane, mono[(alkyl(C=12-14)oxy)methyl] derivs.] : S2, S24, S37
- 米国の管理情報
 - * OSHA規定 (29CFR1910.119)
 - 該当なし
 - * CERCLA 103 規制 (40CFR302.4)

- 該当なし
- * EPCRA 302 規制 (40CFR355.30)
 - 該当なし
- * EPCRA 304 規制 (40CFR355.40)
 - 該当なし
- * EPCRA 313 規制 (40CFR372.65)
 - 該当なし
- ロッテルダム協約物質
 - 該当なし
- スtockホルム協約物質
 - 該当なし
- モントリオール議定書物質
 - 該当なし

16. その他注意事項

A. 参考文献

- このSDSはKOSHA、NITE、ESIS、NLM、SIDS、IPCSなどに基づいて作成してある。
- 危険及び有害性評価は十分ではないので、お取り扱いには十分にご注意ください。
- 本製品安全データシートは当社の製品を適切に使用するために注意する事項を簡単に整理したもので、通常の取り扱いを対象に作成されております。
- ここに記載された内容は現時点で入手出来た情報やメーカー所有の知見に基づいて作成しており、そのデータや評価はいかなる保証をなすものではありません。
- 法令の改訂及び新しい知見により改訂されることがあります。
- GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法ーラベル、作業場内の表示及び安全データシート(SDS) JIS Z 7253

B. 作成日

- 2014-10-06

C. 改訂回数及び最終改訂日

- 3 times, 2015-10-21

D. その他

- この情報は労働者の健康、環境、安全を保護するため、現在使用可能なDBに基づいて作成してある。

安全データシート(SDS)

フロアパッチFC プライマー 硬化剤

発行日: 2014-10-06

改訂日付: 2021-01-06

バージョン: R0001.0003

1. 化学製品および会社情報

A. 製品名

- フロアパッチFC プライマー 硬化剤

B. 製品の勧告用途と使用上の制限

- 用途 : コンクリート補修剤用プライマー 硬化剤
- 使用上の制限 : 所定の用途以外に使用しないこと

C. 製造業者/供給者/流通業者情報

- 製造者情報
 - 製造元/供給元 : ITW Performance Polymers, North America
 - 住所 : 30 Endicott Street, Danvers, MA 01933
- 供給者/販売者情報
 - 供給元/販売元 : 株式会社ITWパフォーマンスポリマーズ & フルuids シェパソン
 - 住所 : 〒564-0053 大阪府吹田市江の木町30-32
 - 担当部署 : 品質管理部
 - 電話 : 06-6330-7118
 - FAX : 06-6330-7083

2. 危険有害性情報

A. GHS分類

- 急性毒性(経口) : 区分4
- 急性毒性(経皮) : 区分4
- 皮膚腐食性/刺激性 : 区分1
- 皮膚腐食性/刺激性 : 区分1A
- 眼に対する重篤な損傷/刺激性 : 区分1
- 皮膚感作性 : 区分1

B. 予防措置文句を含む警告表示項目

- シンボル



- 信号語

- 危険

- 危険有害性情報

- H302 飲み込むと有害
- H312 皮膚に接触すると有害
- H314 重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷
- H317 アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
- H318 重篤な眼の損傷

- 注意書き

1) 予防

- P260 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
- P264 取扱後は手をよく洗うこと。
- P270 この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
- P272 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
- P280 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

2) 対応

- P301+P312 飲み込んだ場合 : 気分が悪い時は医師に連絡すること。
- P301+P330+P331 飲み込んだ場合 : 口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
- P302+P352 皮膚に付着した場合 : 多量の水と石鹸で洗うこと。

- P303+P361+P353 皮膚（または髪）に付着した場合：直ちに汚染された衣類をすべて脱ぐこと/取り除くこと。皮膚を流水/シャワーで洗うこと。
- P304+P340 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- P305+P351+P338 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
- P312 気分が悪い時は医師に連絡すること。
- P322 特別な処置が必要である
- P330 口をすすぐこと。
- P333+P313 皮膚刺激または発疹が生じた場合：医師の診断/手当てを受けること。
- P363 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。

3) 保存

- P405 施錠して保管すること。

4) 廃棄

- P501 内容物/容器を都道府県/市町村の法令・規則に従って廃棄すること。

C. 有害・危険性分類基準に含まれてないその他の有害・危険性

○ NFPA等級（0～4段階）

- 保健：3, 火災：2, 反応性：0

3. 組成及び成分情報

- 単一製品・混合物の区別 : 混合物
- 一般名 : ポリアミン組成物

化学物質名	慣用名及び異名	CAS No.	官報公示番号	PRTR法	含有量(%)
ベンジルアルコール	-	100-51-6	3-1011	-	70-80
サリチル酸	-	69-72-7	3-1640	-	10-20
イソホロンジアミン (cis-, trans-混合物)	-	2855-13-2	3-2286	-	<8

*GHS危険有害性分類対象物質と日本国内法規制対象物質のみ記載

4. 応急措置

A. 眼への接触

- 眼をこすらないこと。
- 大量の水を使用して、少なくとも15分間眼を洗い流すこと。
- 直ちに医師の治療を受けること。

B. 皮膚に付着した場合

- 直ちに医師の治療を受けること。
- 皮膚のまん延を防ぐこと。

C. 吸入毒性

- 多量の蒸気やミストに曝露された場合、直ちに新鮮な空気のある場所に移すこと。
- 必要に応じて適切な措置をとること。

D. 飲み込んだ場合

- 嘔吐をすべきかどうかについては医師の助言を取ること。
- 直ちに水で口をすすぐこと。

E. 急性および遅延性の主な症状/影響

- データなし

F. 応急救置および医師の注意事項

- データなし

5. 火災時の措置

A. 消火剤

- 粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂

B. 使ってはならない消火剤

- 水、泡（炎を拡散する可能性がある）

C. 特有の危険有害性

- 消火活動の際には有毒ガスが発生するので、煙を吸入しないように注意する。

D. 特定の消化方法

- 適切な保護具を着用する。防護服を着用していない人を作業場から遠ざける。可燃性のものを周囲から素早く取り除く。爆発のリスクを最小限にする為、霧状の水を使用して容器を冷却する。

E. 消化を行う者の保護

- 空気呼吸器を含め、必要に応じて適切な保護具(耐熱性)を着用すること。

6. 漏出時の措置**A. 人体を保護するために必要な注意事項**

- 密閉された空間に出入りする前に、換気を実施すること。
- 漏出区域から安全な区域に容器を移動すること。
- すべての発火源を取り除くこと。
- 保護具を着用した後、破損した容器あるいは漏洩された物質を処理すること。
- 皮膚との接触、吸入を避けること。

B. 環境に対する注意事項

- 漏出物が下水施設、水系に流入しないようにすること。
- 漏出量が多い場合、119や環境省、地方環境管理庁、市・道（環境指導課）に通報すること。

C. 浄化方法

- 大量漏出の場合、低い領域を避け、風上に止まること。後日処理のために堤防を築造して管理すること。
- 基準量以上排出時、中央政府、地方公共団体の排出の内容を通知すること。
- 廃棄物管理法（環境省）により処理すること。
- 漏出物質廃棄のため、適切な容器に回収すること。

7. 取扱い及び保管上の注意**A. 安全な取り扱いのための注意事項**

- 容器が空になった後も製品かす(蒸気、液体、固体)が残ることがあるので、すべてSDS、ラベルの予防措置に従うこと。
- すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。

B. 安全保管条件

- 使用しない場合、密閉しておくこと。
- 火気厳禁
- 密閉容器に入れて回収すること。

8. 暴露防止及び保護措置**A. 許可濃度**

- 日本許容濃度
 - 該当なし
- ACGIHの暴露標準
 - データなし

B. 設備対策

- データなし

C. 個人防護具

- 呼吸保護
 - 使用前に警告の特性を考慮すること。
- 眼の保護
 - 作業場の近くに洗顔設備と非常洗浄設備（シャワー式）を設置すること。
- 手の保護
 - 適切な保護手袋を着用すること。
- 身体の保護
 - 適切な保護服を着用すること。
- その他
 - データなし

9. 物理化学的特性

A. 外観	
- 性状	液状
- 色	黄褐色透明
B. 臭い	アミン臭
C. 臭気閾値	データなし
D. pH	アルカリ性
E. 融点/凝固点	データなし
F. 沸点、初留点及び沸騰範囲	205 °C
G. 引火点	> 93.2 °C
H. 蒸発速度	<<1 (酢酸ブチル=1)
I. 引火性 (固体、気体)	データなし
J. 燃焼又は爆発範囲下限/上限	データなし
K. 蒸気圧	<10.34mmHg@23°C
L. 溶解度	データなし
M. 蒸気密度	データなし
N. 比重	0.99
O. 水/n-オクタノール分配係数	データなし
P. 自然発火温度	データなし
Q. 熱分解温度	データなし
R. 粘度	データなし
S. 分子量	データなし

10. 安定性及び反応性

A. 安定性

- 常温・常圧、密閉保管であれば安定

B. 有害反応の可能性

- 酸、酸化剤、有機塩素化合物、反応性金属 (ナトリウム、カルシウム、亜鉛等)、次亜塩素酸ナトリウム/カリウム、亜硝酸、一酸化二窒素、亜硝酸化合物との混触を避ける。本品はヒドロキシル化合物と反応する。

C. 避けるべき条件

- 高温、火花及び直火。混触禁止物質、酸化剤及び酸化する環境。

D. 混触危険物質

- 酸、酸化剤、有機塩素化合物、反応性金属 (ナトリウム、カルシウム、亜鉛等)、次亜塩素酸ナトリウム/カリウム、亜硝酸、一酸化二窒素、亜硝酸化合物

E. 危険有害な分解生成物

- データなし

11. 毒性に関する情報

A. 暴露の可能性が高いルートに関する情報

- (呼吸器)
 - データなし
- (経口)
 - 飲み込むと有害
- (眼・皮膚)
 - 重篤な眼の損傷
 - 重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷
 - アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ

B. 毒性と刺激性

- 急性毒性
 - * 経口毒性
 - [Benzyl alcohol]: ラットのLD50値 = 1610 mg/kg (SIDS (2008)) (Directive 84/449/EECガイドラインに準拠)、1230 mg/kg (PATTY (5th, 2001))、2080 mg/kg (SIDS (2008))、3100 mg/kg (PATTY (5th, 2001))のデータに基づき、EECガイドライン準拠、かつ、危険性の高い区分を採用し、区分4とした。

- [Cyclohexanemethanamine, 5-amino-1,3,3-trimethyl-]: ラットLD50値1030mg/kg (SIDS (access on 7 2008))により区分4とした。

*** 経皮毒性**

- [Benzyl alcohol]: ウサギのLD50値=2000mg/kg (SIDS (2008))に基づき、区分4とした。

*** 吸入毒性**

- [Benzyl alcohol]: ラットのLC50値>4.178 mg/L (SIDS (2008)) (OECD TG 403; GLP準拠)、ラットのLC50値=8.9 mg/L (SIDS (2008))、ラットのLC50値=8.84 mg/L (換算値: 12.5 mg/L/4h)(PATY (5th, 2001))に基づき、GLP準拠のデータ>4.178 mg/Lかつ危険性の高い区分 (8.9 mg/L) を採用しJIS分類基準の区分3とした。なお、毒性濃度 (2012 ppmV) は飽和蒸気圧濃度(123.6 ppmV; 25°C) の90%値よりも高いので蒸気と判断した。

○ 皮膚腐食性/刺激性

- [Benzyl alcohol]: ウサギのドレイズ試験の2報告で、皮膚一次刺激性指標値 (PII値) は、それぞれ、1.56、1.83 (ECETOC TR 66(1995)) であり、いずれも2.3より低いため区分外とした。

- [2-Hydroxybenzoic acid]: 軽度の皮膚刺激

- [Cyclohexanemethanamine, 5-amino-1,3,3-trimethyl-]: ウサギおよびラットを使用した試験で浮腫を起こし、刺激と炎症が認められた (SIDS (access on 7 2008)) との記載、およびpHが11.6 (8.5g/L, 20°C) であることより区分1とした。なお、反復ばく露により痂皮形成と壊死を伴う重度の影響が現れ、EU分類ではR34に区分されている (EU-Annex (access on 7 2008)) 。

○ 眼に対する重篤な損傷/刺激性

- [Benzyl alcohol]: ウサギを用いた眼刺激性試験(OECD TG 405) で、中等度の刺激性 (moderately irritating) (SIDS (2008)) に基づいて区分2とした。

- [2-Hydroxybenzoic acid]: 強い眼刺激

- [Cyclohexanemethanamine, 5-amino-1,3,3-trimethyl-]: ウサギ眼に適用直後から重度の傷害をもたし、24時間後には結膜に壊死を認め腐食性 (corrosive) と評価されている (SIDS (access on 7 2008)) ことより区分1とした。なお、試験物質が腐食性を示すため使用動物は1匹のみで試験は24時間で打ち切られた。

○ 呼吸器感作性

- データなし

○ 皮膚感作性

- [Benzyl alcohol]: データ不足により分類できない。なお、2261人のボランティアに対するパッチテストにおいて約1%に陽性反応がみられたが、他方、本研究の最大投与量 (10%濃度、48時間×5回) のテストにおいても25人の被験者には感作反応が現れなかったとの報告がある。

- [Cyclohexanemethanamine, 5-amino-1,3,3-trimethyl-]: モルモットを用いた複数のマキシミゼーション試験 (OECD Guideline 406 準拠試験を含む) で陽性結果 (SIDS (access on 7 2008)) が得られ、さらに、ヒトで主に職業ばく露によりアレルギー性接触皮膚炎を発症し、その後のパッチテストで本物質に対し陽性反応を示した症例報告あるいは疫学調査の報告 (SIDS (access on 7 2008)) が多数あり、これらの事実に基づき区分1とした。

○ 発がん性

*** IARC**

- データなし

*** OSHA**

- データなし

*** ACGIH**

- データなし

*** NTP**

- データなし

*** EU CLP**

- データなし

○ 生殖細胞変異原性

- [Benzyl alcohol]: マウスを用いた腹腔内投与によるin vivo 小核試験 (OECD TG474) (体細胞in vivo変異原性試験) で陰性結果(SIDS(2008))が報告されていることから、区分外とした。なお、Ames試験・大腸菌の点変異試験・CHO細胞の細胞遺伝学的試験など多数のin vitro変異原性試験報告があるが、曖昧な判定結果を除き20報告中で13例の陰性結果 (SIDS(2008))、及び3例の陽性結果ある (SIDS(Access on June. 2008))。

- [Cyclohexanemethanamine, 5-amino-1,3,3-trimethyl-]: マウスに経口投与後の赤血球を用いた小核試験 (体細胞in vivo変異原性試験) での陰性結果 (SIDS (access on 7 2008)) により区分外とした。なお、in vitro変異原性試験でもエームス試験、HGPRT試験、染色体異常試験で陰性 (SIDS (access on 7 2008)) の報告がある。

○ 生殖毒性

- [Benzyl alcohol]: ラットの4世代経口投与試験において、用量750mg/kg/day以下では、繁殖力、授乳、発育、催奇性に影響なしと報告されているが、仔の発生毒性に関するデータが不十分であるため分類できないとした。

- [2-Hydroxybenzoic acid]: 生殖能または胎児への悪影響のおそれの疑い

- [Cyclohexanemethanamine, 5-amino-1,3,3-trimethyl-]: ラットの器官形成期を含む妊娠期間に経口投与した試験において、高用量群では母動物の体重と摂餌量が有意な低値を示したが、催奇形性および胎児毒性を含む仔の発生に悪影響は認められなかった (SIDS (access on 7 2008))。しかし、親動物の性機能および生殖能に対する影響に関してはデータがなく分類できない。

○ 標的臓器/全身毒性 (単回暴露)

- [Benzyl alcohol]: ラットのLD50値 (経口) で用量1230 mg/kg、1660mg/kg、マウスのLD50値 (経口) で用量1360 mg/kg、また、ラット・マウスの吸入試験、以上 [RTECS (2007)] において嗜眠・昏睡・運動失調などの神経毒性諸症状を示す報告があるが、リスト3のデータであるため分類できないとした。

- [Cyclohexanemethanamine, 5-amino-1,3,3-trimethyl-]: ラットを用いた急性経口毒性試験の一部の動物で腎臓重量と尿蛋白の増加に加え、腎臓が標的臓器である可能性が記述されている (SIDS (access on 7 2008)) が、得られた情報のみでは発現用量や毒性の重大性が判断できないので分類できない。

○ 標的臓器／全身毒性 (反復暴露)

- [Benzyl alcohol]: ラットの強制経口投与試験 (50, 100, 200, 400, 800 mg/kg/d、13週) において、800mg/kg/d投与群に神経毒性症状(呼吸困難、昏睡状態)が報告されており、これは区分外に該当する (SIDS (2008); IUCLID(2000))。しかし、他経路のデータがない。よって分類できないとした。

- [Cyclohexanemethanamine, 5-amino-1,3,3-trimethyl-]: ラットに13週間経口ばく露した試験 (OECD Guideline 408) において、160 mg/kg/dayで形態学的変化を示す所見、即ち腎臓の尿細管にリンパ性病巣を伴った好塩基性化の増強と円柱が認められ腎症が示唆された (SIDS (access on 7. 2008)) が、この用量より低い60 mg/kg/dayでは影響がなく、またその他にも有意な変化がなかったのでこの試験データは分類根拠とならない。一方、ラットに18~550 mg/m3を14日間吸入ばく露した試験 (ばく露日数9日) において、鼻腔、気管、喉頭および肺に用量依存的な病理組織学的変化、即ち嗅上皮と気道上皮の変性・壊死、鼻腔と喉頭の過形成・扁平化生、気道と肺の肥厚・過形成がそれぞれ認められ、標的臓器とし呼吸器系が記述されている (SIDS (access on 7. 2008))。14日間のばく露濃度18~550 mg/m3 (90日補正: 0.003~0.086 mg/L) および飽和蒸気圧濃度137 mg/m3 (19.7 ppm)から、ミストの状態でガイダンス値区分2に相当する用量範囲での発生と判断されるので、区分2 (呼吸器系) とした。

○ 吸入有害性

- データなし

12. 生態学的情報

A. 生態毒性

○ 魚類

- [Benzyl alcohol]: 魚類 (ファットヘッドミノー) の96時間LC50 = 460 mg/L

○ 甲殻類

- [Benzyl alcohol]: 甲殻類 (オオミジンコ) の48時間EC50 = 230 mg/L

- [Cyclohexanemethanamine, 5-amino-1,3,3-trimethyl-]: 甲殻類 (オオミジンコ) の48時間EC50 = 23 mg/L

○ 藻類

- [Benzyl alcohol]: 藻類の72時間EC50 = 770 mg/L

B. 残留性と分解性

○ 残留性

- データなし

○ 分解性

- データなし

C. 生体蓄積性

○ 生体蓄積性

- データなし

○ 生分解性

- データなし

D. 土壌中の移動性

- データなし

E. オゾン層への有害性

- データなし

F. その他の有害な影響

- [Benzyl alcohol]: 難水溶性でなく (水溶解度=40 g/L (SIDS, 2004))、急性毒性が区分外であることから、区分外とした。

- [Cyclohexanemethanamine, 5-amino-1,3,3-trimethyl-]: 急性毒性区分3であり、急速分解性がない (難分解性、BODによる分解度: 0% (既存点検, 1986)) が、甲殻類 (オオミジンコ) の21日間NOEC = 3.0 mg/L (> 1 mg/L) (SIDS, 2005) であることから、区分外とした。

13. 廃棄上の注意

A. 廃棄方法

- 油と水の分離が可能なのは、油と水の分離方法で事前処理すること。
- 焼却して処理する
- 廃棄物管理法上の規定を遵守すること。

B. 廃棄上の注意

- データなし

14. 輸送上の注意

A. 国連番号

- 2289

B. 国連輸送固有名

- Isophoronediamine

C. 輸送危険クラス (ES) :

- 8

D. 包装等級

- III

E. 海洋汚染物質

- 該当なし

F. 輸送の特定の安全対策及び条件

- DOTおよびその他の規定により包装または輸送すること。
- 火災時の非常措置の種類 : F-A (General fire schedule)
- 流出時の非常措置の種類 : S-B (Corrosive substances)

G. 緊急時応急措置指針 (容器イエローカード) 番号

- 153

15. 適用法令

A. 日本国内規制事項

- 消防法
 - 第4種第4石油類
 - * 危険等級
 - III
- 労働安全衛生法
 - * 表示物質
 - 法57条1、施行令第18条 (530の2 ベンジルアルコール)
 - * 通知物質
 - 法第57条の2、施行令第18条の2 別表9 (530の2 ベンジルアルコール)
 - * その他
 - エポキシ樹脂硬化剤健康障害防止通達該当

B. 他の国内および国際法律情報

- 残留性有機汚染物質規制法
 - 該当なし
- EU 分類情報
 - * 分類
 - [Benzyl alcohol] : Xn; R20/22
 - [Cyclohexanemethanamine, 5-amino-1,3,3-trimethyl-] : Xn; R21/22 C; R34 R43 R52-53
 - * 危険有害性情報
 - [Benzyl alcohol] : R20/22
 - [Cyclohexanemethanamine, 5-amino-1,3,3-trimethyl-] : R21/22, R34, R43, R52/53
 - * 注意書き
 - [Benzyl alcohol] : S2, S26
 - [Cyclohexanemethanamine, 5-amino-1,3,3-trimethyl-] : S1/2, S26, S36/37/39, S45, S61
- 米国の管理情報
 - * OSHA規定 (29CFR1910.119)
 - 該当なし
 - * CERCLA 103 規制 (40CFR302.4)
 - 該当なし
 - * EPCRA 302 規制 (40CFR355.30)
 - 該当なし
 - * EPCRA 304 規制 (40CFR355.40)
 - 該当なし
 - * EPCRA 313 規制 (40CFR372.65)
 - 該当なし

- ロッテルダム協約物質
 - 該当なし
- スtockホルム協約物質
 - 該当なし
- モントリオール議定書物質
 - 該当なし

16. その他注意事項

A. 参考文献

- このSDSはKOSHA、NITE、ESIS、NLM、SIDS、IPCSなどに基づいて作成してある。
- 危険及び有害性評価は十分ではないので、お取り扱いには十分にご注意ください。
- 本製品安全データシートは当社の製品を適切に使用するために注意する事項を簡単に整理したもので、通常の取り扱いを対象に作成されております。
- ここに記載された内容は現時点で入手出来た情報やメーカー所有の知見に基づいて作成しており、そのデータや評価はいかなる保証をなすものではありません。
- 法令の改訂及び新しい知見により改訂されることがあります。
- GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法ーラベル、作業場内の表示及び安全データシート(SDS) JIS Z 7253

B. 作成日

- 2014-10-06

C. 改訂回数及び最終改訂日

- 4 times, 2021-01-06

D. その他

- この情報は労働者の健康、環境、安全を保護するため、現在使用可能なDBに基づいて作成してある。



安全データシート(SDS)

フロアパッチFC 骨材

発行日: 2014-10-06

改訂日付: 2016-06-01

バージョン: R0001.0003

1. 化学製品および会社情報

A. 製品名

- フロアパッチFC 骨材

B. 製品の勧告用途と使用上の制限

- 用途 : コンクリート補修剤用骨材
- 使用上の制限 : 所定の用途以外に使用しないこと

C. 製造業者/供給者/流通業者情報

○ 製造者情報

- 製造元/供給元 : ITW Polymers Adhesives, North America
- 住所 : 30 Endicott Street, Danvers, MA 01933

○ 供給者/販売者情報

- 供給元/販売元 : 株式会社ITWパフォーマンスポリマーズ & フルイズ ジャパン
- 住所 : 〒564-0053 大阪府吹田市江の木町30-32
- 担当部署 : 品質管理部
- 電話 : 06-6330-7118
- FAX : 06-6330-7083

2. 危険有害性情報

A. GHS分類

- 発がん性: 区分1A
- 標的臓器/全身毒性(単回暴露): 区分1(呼吸器系)
- 標的臓器/全身毒性(反復暴露): 区分1(呼吸器系、腎臓)

B. 予防措置文句を含む警告表示項目

○ シンボル



○ 信号語

- 危険

○ 危険有害性情報

- H350 発がんのおそれ
- H370 臓器の障害(呼吸器系)
- H372 長期にわたる、または反復暴露により臓器の障害(呼吸器系)

○ 注意書き

1) 予防

- P201 使用前に取扱説明書を入手すること。
- P202 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
- P260 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
- P264 取扱後は手をよく洗うこと。
- P270 この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
- P281 指定された個人用保護具を使用すること。

2) 対応

- P307+P311 暴露した場合: 医師に連絡すること。
- P308+P313 暴露または暴露の懸念がある場合: 医師の診断/手当てを受けること。
- P314 気分が悪い時は、医師の診断/手当てを受けること。
- P321 特別な処置が必要である

3) 保存

- P405 施錠して保管すること。

4) 廃棄

- P501 内容物/容器を都道府県/市町村の法令・規則に従って廃棄すること。

C. 有害・危険性分類基準に含まれてないその他の有害・危険性

- NFPA等級 (0～4段階)
- 保健:1, 火災:0, 反応性:0

3. 組成及び成分情報

- 単一製品・混合物の区別 : 単一製品
- 一般名 : 珪砂

化学物質名	慣用名及び異名	CAS No.	官報公示番号	PRTR法	含有量(%)
石英粉	Crystalline silica	14808-60-7	1-548	-	90-100

*GHS危険有害性分類対象物質と日本国内法規制対象物質のみ記載

4. 応急措置**A. 眼への接触**

- 眼をこすらないこと。
- 大量の水を使用して、少なくとも15分間眼を洗い流すこと。
- 直ちに医師の治療を受けること。

B. 皮膚に付着した場合

- 直ちに医師の治療を受けること。

C. 吸入毒性

- 多量の蒸気やミストに曝露された場合、直ちに新鮮な空気のある場所に移すこと。
- 必要に応じて適切な措置をとること。
- 直ちに医師の治療を受けること。

D. 飲み込んだ場合

- 嘔吐をすべきかどうかについては医師の助言を取ること。
- 直ちに水で口をすすぐこと。
- 直ちに医師の治療を受けること。

E. 急性および遅延性の主な症状/影響

- データなし

F. 応急処置および医師の注意事項

- ばく露とばく露懸念時、医学的な措置、助言を求めること。

5. 火災時の措置**A. 消火剤**

- 本製品自体は、燃焼しない。
- 周辺火災に応じて、適切な消火剤を用いる。

B. 使ってはならない消火剤

- 周辺火災に応じる。

C. 特有の危険有害性

- 消火活動の際には有毒ガスが発生するので、煙を吸入しないように注意する。

D. 特定の消化方法

- 適切な保護具を着用する。防護服を着用していない人を作業場から遠ざける。可燃性のものを周囲から素早く取り除く。爆発のリスクを最小限にする為、霧状の水を使用して容器を冷却する。

E. 消化を行う者の保護

- 空気呼吸器を含め、必要に応じて適切な保護具(耐熱性)を着用すること。

6. 漏出時の措置**A. 人体を保護するために必要な注意事項**

- 密閉された空間に出入りする前に、換気を実施すること。
- 漏出し物質に触れないこと。作業者が危険なく漏れを停止させることができれば停止すること。
- 保護具を着用した後、破損した容器あるいは漏洩された物質を処理すること。
- 危険地域を隔離し、関係者外の立ち入りを禁止すること

B. 環境に対する注意事項

- 漏出物が下水施設、水系に流入しないようにすること。
- 漏出量が多い場合、119や環境省、地方環境管理庁、市・道（環境指導課）に通報すること。

C. 浄化方法

- 大量漏出の場合、低い領域を避け、風上に止まること。後日処理のために堤防を築造して管理すること。
- 基準量以上排出時、中央政府、地方公共団体の排出の内容を通知すること。
- 廃棄物管理法（環境省）により処理すること。
- 漏出物質廃棄のため、適切な容器に回収すること。
- 漏出物質は潜在的な危険性廃棄物としての処理をすること。

7. 取扱い及び保管上の注意**A. 安全な取り扱いのための注意事項**

- 容器が空になった後も製品かす（蒸気、液体、固体）が残ることがあるので、すべてMSDS、ラベルの予防措置に従
- 汚染された衣服を作業場から持ち出さないこと。

B. 安全保管条件

- 避けるべき物質および条件に注意すること。
- 密閉容器に入れて回収すること。
- 発がん性物質保存区域を指定して保存すること。

8. 暴露防止及び保護措置**A. 許可濃度**

- 日本許容濃度
 - 該当なし
- ACGIHの暴露標準
 - [Quartz (SiO₂)] : TWA 0.025 mg/m³, Respirable particulate matter

B. 設備対策

- 作業所はできるだけ自動化し、混合、加熱工程等の設備はできるだけ密閉構造にする。
- 取扱場所の近くに手洗い、洗眼設備等を設け、その位置を明示する。
- 適切な全体換気、局所排気装置を用いること。

C. 個人防護具

- 呼吸保護
 - 使用前に警告の特性を考慮すること。
- 眼の保護
 - 作業場の近くに洗顔設備と非常洗浄設備（シャワー式）を設置すること。
- 手の保護
 - 適切な保護手袋を着用すること。
- 身体の保護
 - 適切な保護服を着用すること。
- その他
 - データなし

9. 物理化学的特性

A. 外観	
- 性状	粒状
- 色	明るい茶色
B. 臭い	無し
C. 臭気閾値	データなし
D. pH	中性
E. 融点/凝固点	1610℃
F. 沸点、初留点及び沸騰範囲	2230℃
G. 引火点	データなし
H. 蒸発速度	データなし
I. 引火性（固体、気体）	データなし
J. 燃焼又は爆発範囲下限/上限	データなし
K. 蒸気圧	データなし
L. 溶解度	データなし

M. 蒸気密度	データなし
N. 比重	データなし
O. 水/n-オクタノール分配係数	データなし
P. 自然発火温度	データなし
Q. 熱分解温度	データなし
R. 粘度	データなし
S. 分子量	データなし

10. 安定性及び反応性

A. 安定性

- 通常の取扱い条件においては安定。

B. 有害反応の可能性

- 強酸化剤と反応し、火災や爆発の危険をもたらす。強酸・フッ化水素と反応する。

C. 避けるべき条件

- データなし

D. 混触危険物質

- 強酸・フッ化水素

E. 危険有害な分解生成物

- けい素酸化物

11. 毒性に関する情報

A. 暴露の可能性が高いルートに関する情報

- (呼吸器)
 - データなし
- (経口)
 - データなし
- (眼・皮膚)
 - データなし

B. 毒性と刺激性

- 急性毒性
 - * 経口毒性
 - [Quartz (SiO₂)] : 分類に適したデータが見つからず、データ不足のため分類できない。
 - * 経皮毒性
 - [Quartz (SiO₂)] : データなし。
 - * 吸入毒性
 - データなし
- 皮膚腐食性/刺激性
 - [Quartz (SiO₂)] : データなし。
- 眼に対する重篤な損傷／刺激性
 - [Quartz (SiO₂)] : SITTIG(4th, 2002)に眼刺激性を示す記載があるが、裏付けとなるデータが見つからず、データ不足のため分類できない。
- 呼吸器感作性
 - [Quartz (SiO₂)] : 呼吸器感作性：データなし。 皮膚感作性：データなし。
- 皮膚感作性
 - データなし
- 発がん性
 - * IARC
 - [Quartz (SiO₂)] : Group 1 (Silica dust, crystalline, in the form of quartz or cristobalite)
 - [Quartz (SiO₂)] : Group 1 (Silica, crystalline-a quartz and cristobalite)
 - * OSHA
 - データなし
 - * ACGIH
 - [Quartz (SiO₂)] : A2 (Silica dust, crystalline, in the form of quartz or cristobalite)
 - [Quartz (SiO₂)] : A2 (Silica, crystalline-a quartz and cristobalite)
 - * NTP
 - [Quartz (SiO₂)] : K (Silica dust, crystalline, in the form of quartz or cristobalite)
 - [Quartz (SiO₂)] : K (Silica, crystalline-a quartz and cristobalite)
 - [Quartz (SiO₂)] : K (Silica, Crystalline (Respirable Size))

*** EU CLP**

- データなし

○ **生殖細胞変異原性**

- [Quartz (SiO₂)]: in vivo変異原性のマウスの骨髄小核試験が陰性(IARC68, 1997; CICAD24, 2000; DFGOT vol.14, 2000)であったことから、区分外とした。なお、OECDガイドラインにはない特殊なin vivo試験系(気管内投与されたラットの肺上皮細胞におけるhprt変異の測定)において突然変異陽性を示す(炎症作用による可能性あり)など、CICAD24(2000)では「試験結果が相反しており、遺伝毒性の評価はまだ確定していない」とされている。また、in vitro変異原性においては、Ames試験のデータはなく、染色体異常試験で陰性、小核試験で陽性の知見がある(IARC68, 1997; CICAD24, 2000; DFGOT vol.14, 2000)。

○ **生殖毒性**

- [Quartz (SiO₂)]: データなし。

○ **標的臓器／全身毒性（単回暴露）**

- [Quartz (SiO₂)]: 反復暴露に比べるとデータが大幅に少ないが、ヒトにおいて短期暴露でも吸入濃度が高い場合は呼吸器系に影響を及ぼすとの記述がIARC68(1997)、SITTIG(4th, 2002)、DHP(13th, 2002)にある。IARC68(1997)はPriority 1文書であるため、区分1(呼吸器系)とした。

○ **標的臓器／全身毒性（反復暴露）**

- [Quartz (SiO₂)]: Priority 1文書のCICAD24(2000)、IARC68(1997)、DFGOT vol.14(2000)、ACGIH-TLV(2005)に、ヒトにおいて呼吸器系、腎臓に影響を及ぼすとの記述があり、区分1(呼吸器系、腎臓)とした。

○ **吸入有害性**

- [Quartz (SiO₂)]: データなし。

12. 生態学的情報**A. 生態毒性**○ **魚類**

- データなし

○ **甲殻類**

- データなし

○ **藻類**

- データなし

B. 残留性と分解性○ **残留性**

- データなし

○ **分解性**

- データなし

C. 生体蓄積性○ **生体蓄積性**

- データなし

○ **生分解性**

- データなし

D. 土壌中の移動性

- データなし

E. オゾン層への有害性

- データなし

F. その他の有害な影響

- [Quartz (SiO₂)]: データがなく分類できない。

13. 廃棄上の注意**A. 廃棄方法**

- 油と水の分離が可能なのは、油と水の分離方法で事前処理すること。
- 焼却して処理する
- 廃棄物管理法上の規定を遵守すること。

B. 廃棄上の注意

- データなし

14. 輸送上の注意**A. 国連番号**

- データなし

B. 国連輸送固有名

- データなし

C. 輸送危険クラス (ES) :

- データなし

D. 包装等級

- データなし

E. 海洋汚染物質

- 該当なし

F. 輸送の特定の安全対策及び条件

- DOTおよびその他の規定により包装または輸送すること。
- 火災時の非常措置の種類: データなし
- 流出時の非常措置の種類: データなし

15. 適用法令**A. 日本国内規制事項**

- 消防法
 - 非危険物
- 労働安全衛生法
 - * 表示物質
 - 法第57条第1項、施行令第18条第1号、第2号・別表第9 (312 シリカ)
 - * 通知物質
 - 法第57条の2、施行令第18条の2第1号、第2号・別表第9 (312 シリカ)

B. 他の国内および国際法律情報

- 残留性有機汚染物質規制法
 - 該当なし
- EU 分類情報
 - * 分類
 - 未分類
 - * 危険有害性情報
 - 該当なし
 - * 注意書き
 - 該当なし
- 米国の管理情報
 - * OSHA規定 (29CFR1910.119)
 - 該当なし
 - * CERCLA 103 規制 (40CFR302.4)
 - 該当なし
 - * EPCRA 302 規制 (40CFR355.30)
 - 該当なし
 - * EPCRA 304 規制 (40CFR355.40)
 - 該当なし
 - * EPCRA 313 規制 (40CFR372.65)
 - 該当なし
- ロッテルダム協約物質
 - 該当なし
- スtockホルム協約物質
 - 該当なし
- モントリオール議定書物質
 - 該当なし

16. その他注意事項**A. 参考文献**

- このSDSはKOSHA、NITE、ESIS、NLM、SIDS、IPCSなどに基づいて作成してある。
- 危険及び有害性評価は十分ではないので、お取り扱いには十分にご注意ください。
- 本製品安全データシートは当社の製品を適切に使用するために注意する事項を簡単に整理したもので、通常の取り扱いを対象に作成されております。

- ここに記載された内容は現時点で入手出来た情報やメーカー所有の知見に基づいて作成しており、そのデータや評価はいかなる保証をなすものではありません。
- 法令の改訂及び新しい知見により改訂されることがあります。
- GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法ーラベル、作業場内の表示及び安全データシート(SDS) JIS Z 7253

B. 作成日

- 2014-10-06

C. 改訂回数及び最終改訂日

- 4 times, 2016-06-01

D. その他

- この情報は労働者の健康、環境、安全を保護するため、現在使用可能なDBに基づいて作成してある。